

千葉県八千代市

# 市内遺跡発掘調査報告書

向山遺跡 e 地点  
川崎山遺跡 n 地点  
作山遺跡 c 地点  
白筋遺跡 b 地点  
内野南遺跡 d 地点  
役山東遺跡 b 地点  
白幡前遺跡 c 地点  
道地遺跡 e 地点  
蛸池台遺跡

平成 20 年度

八千代市教育委員会

千葉県八千代市  
市内遺跡発掘調査報告書  
平成20年度

発行日 平成21年1月30日  
編集・発行 八千代市教育委員会 教育総務課  
〒276-0045 千葉県八千代市大和田138-2  
TEL 047(483)1151

印刷 金子印刷企画

## 凡 例

1. 本書は、八千代市教育委員会が平成19年度市内遺跡発掘調査事業として、国庫及び県費の補助を受けて実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。報告書作成作業は、平成20年度事業として行った。
2. 本書に収録した発掘調査は、以下のとおりである。

No	遺跡名	所在地	調査期間	調査面積	調査原因	調査担当
1	向山遺跡 e 地点	大和田新田字向山501番の1ほか	平成19年4月2日～ 平成19年4月10日	上層 285㎡/2,997.73㎡ 下層 21㎡/2,997.73㎡	共同住宅建設	宮澤久史
2	川崎山遺跡 n 地点	萱田字中台2288-3	平成19年4月20日～ 平成19年4月27日	上層 126㎡/1,178.78㎡	一戸建売住宅建設	森 竜哉
3	作山遺跡 c 地点	小池字庚申前347-2	平成19年4月27日～ 平成19年5月9日	上層 250㎡/1,920㎡	駐車場	宮澤久史
4	白筋遺跡 b 地点	村上字殿内1587番3ほか	平成19年6月29日～ 平成19年7月10日	上層 446㎡/3,686.44㎡	立体駐車場建設	宮澤久史
5	内野南遺跡 d 地点	吉橋字内野1058番1	平成19年7月12日～ 平成19年8月14日	上層 970㎡/9,702.82㎡ 下層 32㎡/9,702.82㎡	集合住宅建設	常松成人
6	役山東遺跡 b 地点	米本字役山2443番1の一部ほか	平成19年9月27日～ 平成19年10月20日	上層 300㎡/2,999.13㎡ 下層 16㎡/2,999.13㎡	駐車場	常松成人
7	白幡前遺跡 c 地点	萱田字上ノ台2083ほか	平成19年10月24日～ 平成19年11月7日	上層 91㎡/894.01㎡	共同住宅建設	常松成人
8	道地遺跡 e 地点	平戸字西ノ上306の一部ほか	平成19年11月15日～ 平成20年2月19日	上層 210㎡/2,032.52㎡ 下層 20㎡/2,032.52㎡	資材置場	常松成人
9	蛸池台遺跡	米本2167-2-3、-16	平成20年2月5日～ 平成20年2月29日	上層 390㎡/4,300㎡	駐車場	常松成人

3. グリッドNo・トレンチNo・遺構Noは、数字と記号（アルファベット）の組合せで表記した。記号は以下のとおりである。

グリッド G      トレンチ T      溝 M

4. 遺物実測図中のスクリーントーンは、以下のとおりである。

繊維土器     
  須恵器     
  赤彩

5. 出土した遺物のほか、写真・図面等の調査資料は、八千代市教育委員会が保管している。
6. 本書の図版作成は、常松成人・山下千代子が行い、遺物の写真撮影・編集・執筆は常松が担当した。

# 目 次

凡 例

目 次

挿図目次

表目次

写真図版目次

I 調査に至る経緯	1
II 各調査の概要	
1. 向山遺跡 e 地点	5
2. 川崎山遺跡 n 地点	8
3. 作山遺跡 c 地点	11
4. 白筋遺跡 b 地点	14
5. 内野南遺跡 d 地点	17
6. 役山東遺跡 b 地点	25
7. 白幡前遺跡 c 地点	30
8. 道地遺跡 e 地点	34
9. 蛸池台遺跡	40
報告書抄録	43

# 挿図目次

第1図 平成19年度調査市内遺跡位置図	3
第2図 向山遺跡位置図	5
第3図 向山遺跡 e 地点トレンチ配置図・土層断面図	6
第4図 川崎山遺跡位置図	8
第5図 川崎山遺跡 n 地点遺構配置図・土層断面図	9
第6図 作山遺跡位置図	11
第7図 作山遺跡 c 地点遺構配置図・土層断面図	12
第8図 白筋遺跡位置図	14
第9図 白筋遺跡 b 地点遺構配置図・土層断面図	15
第10図 内野南遺跡位置図	17
第11図 内野南遺跡 d 地点遺構配置図・土層断面図	18
第12図 内野南遺跡 d 地点出土遺物 (1)	19
第13図 内野南遺跡 d 地点出土遺物 (2)	20
第14図 役山東遺跡位置図	25
第15図 役山東遺跡 b 地点遺構配置図・土層断面図	26
第16図 役山東遺跡 b 地点出土遺物	27
第17図 白幡前遺跡位置図	30
第18図 白幡前遺跡 c 地点遺構配置図・土層断面図・出土遺物	31

第19図	道地道跡位置図	34
第20図	道地道跡 e 地点遺構配置図・土層断面図	35
第21図	道地道跡 e 地点出土遺物	37
第22図	蛸池台遺跡位置図	40
第23図	蛸池台遺跡遺構配置図・土層断面図・出土遺物	41

## 表 目 次

第1表	内野南遺跡 d 地点出土遺物観察表	21
第2表	役山東遺跡 b 地点出土遺物観察表	28
第3表	白幡前遺跡 c 地点出土遺物観察表	32
第4表	道地道跡 e 地点出土遺物観察表	36

## 写真図版目次

図版 1	向山遺跡 e 地点	7
図版 2	川崎山遺跡 n 地点	10
図版 3	作山遺跡 c 地点	13
図版 4	白筋遺跡 b 地点	16
図版 5	内野南遺跡 d 地点 (1)	23
図版 6	内野南遺跡 d 地点 (2)	24
図版 7	役山東遺跡 b 地点	29
図版 8	白幡前遺跡 c 地点	33
図版 9	道地道跡 e 地点	39
図版 10	蛸池台遺跡	42

## I 調査に至る経緯

八千代市は、首都圏のベッドタウンとして開発が進み、平成8年4月の東葉高速鉄道の開業以来、さらにその傾向を強め、沿線を中心とした新しいまちづくりが進んでいる。こうした状況の中、八千代市教育委員会（以下「市教委」という。）では、千葉県教育委員会の指導のもと、開発事業者から事前手続として提出される「埋蔵文化財の取扱いについて（確認）」（以下「確認依頼」という。）に対処し、埋蔵文化財の保護に努めている。確認調査が必要と判断される事業については、国庫及び県費の補助を受け、「市内遺跡発掘調査事業」として調査を実施している。

以下は、平成19年度に実施した「市内遺跡発掘調査事業」の各調査に至る経緯である。

### 向山遺跡 e 地点

平成19年2月、有限会社高徳代表取締役高橋礼子氏（以下「事業者」という。）から大和田新田字向山の共同住宅建設事業に係る確認依頼が市教委に提出された。確認地は、現況山林で地表面の観察は不可能であったが、周知の遺跡範囲内であり、近隣において遺構・遺物が検出されている。市教委は、「確認地は周知の埋蔵文化財包蔵地ですので、文化財保護法第93条に基づく届出が必要です。当教育委員会と連絡の上協議して下さい。」という旨（以下「遺跡が所在する旨」という。）を同年3月に回答し、取扱いに係る協議を行った。その結果、事業者は開発事業を進めたいとのことであり、発掘調査を行うこととなった。同年4月、事業者から文化財保護法第93条第1項の規定による土木工事のための発掘届（以下「土木工事の届」という。）が提出され、4月2日に調査を開始した。

### 川崎山遺跡 n 地点

平成19年3月、株式会社二十一大成住販代表取締役内藤雅夫氏（以下「事業者」という。）から、萱田字中台の戸建販売住宅建設事業に係る確認依頼が市教委に提出された。確認地は、現況山林で地表面観察はできなかったが、周知の遺跡範囲内であり、隣接地で遺構・遺物が検出されており、当該地にも遺構が分布する可能性が高いと判断された。このため、市教委は、遺跡が所在する旨を同年4月に回答し、取扱いに係る協議を行った。その結果、事業者は開発事業を進めたいとのことであり、発掘調査を行うこととなった。同年4月、事業者から土木工事の届が提出され、4月20日に調査を開始した。

### 作山遺跡 c 地点

平成19年3月、株式会社平成建設工業代表取締役近藤博氏（以下「事業者」という。）から小池字庚申前の駐車場建設事業に係る確認依頼が市教委に提出された。確認地は、周知の遺跡範囲内であり、近隣で遺構・遺物が検出されている。このため、市教委は、遺跡が所在する旨を同月に回答し、取扱いに係る協議を行った。その結果、事業者は開発事業を進めたいとのことであり、発掘調査を行うこととなった。同月、事業者から土木工事の届が提出され、4月27日に調査を開始した。

### 白筋遺跡 b 地点

平成18年9月、株式会社ジョイフルカンパニー代表取締役社長本田昌也氏（以下「事業者」という。）から村上字殿内の立体駐車場建設工事に伴い、「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会文書が市教委に提出された。照会地は、市遺跡№208白筋遺跡の縁辺地区であり、過去の隣接地

及び周辺部での調査の成果から、本照会地においても遺構が検出される可能性があると考えられた。市教委は、事業者に対して、試掘調査を実施し、その結果で回答するとの指導を行った。日程等調整の後、試掘調査は平成19年6月に実施し、堅穴住居跡1軒を検出した。この結果を受け、市教委は、遺跡が所在する旨同月に回答し、取扱いに係る協議を行った。事業者は開発事業を進めたいとのことであり、発掘調査を行うこととなった。同月、事業者から土木工事の届が提出され、6月29日に調査を開始した。

#### 内野南遺跡d地点

平成19年4月、斉藤信氏（以下「事業者」という。）から集合住宅建設事業に係る確認依頼が市教委に提出された。確認地は、周知の遺跡範囲内であり、隣接地で遺構・遺物が検出されている。このため、市教委は、遺跡が所在する旨同月に回答し、取扱いに係る協議を行った。その結果、事業者は開発事業を進めたいとのことであり、発掘調査を行うこととなり、同月事業者から土木工事の届が提出された。現況は山林で下草が繁茂していたため、事業者が下草刈り作業を行い、準備が整った7月12日に調査を開始した。

#### 役山東遺跡b地点

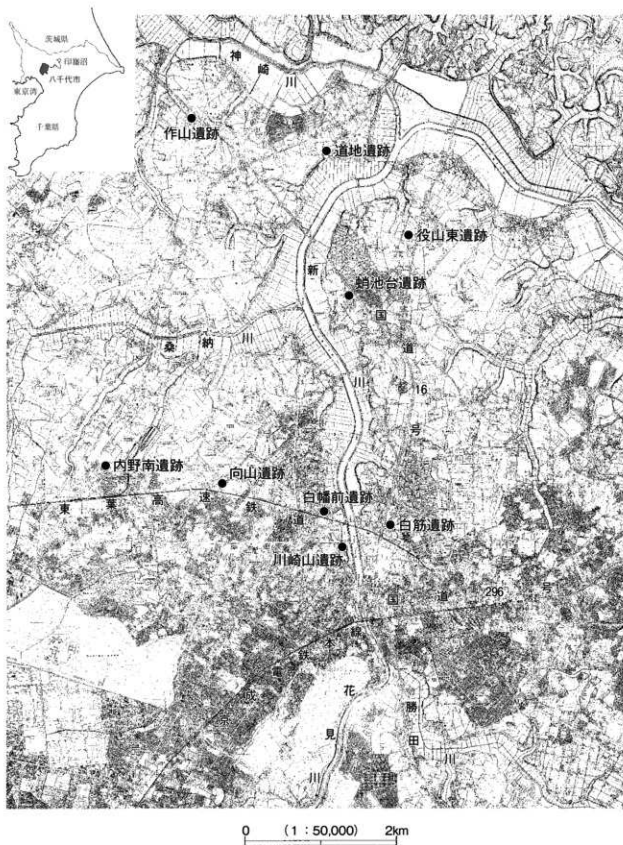
平成19年9月、小名木伸雄氏（以下「事業者」という。）から米本字役山の駐車場建設事業に係る確認依頼が提出された。確認地は、現況山林で地表面観察ができなかったため、試掘を実施して判断することにした。その結果遺構が検出されたため、市教委は、遺跡が所在する旨を同月に回答し、取扱いに係る協議を行った。その結果、事業者は開発事業を進めたいとのことであり、発掘調査を行うこととなった。対象地は周知の遺跡範囲外であったが、近隣に所在する役山東遺跡の範囲を拡大して遺跡名とした。同月、事業者から土木工事の届が提出され、9月27日に調査を開始した。

#### 白幡前遺跡c地点

平成19年9月、君塚亮紀氏（以下「事業者」という。）から萱田字ノ台の共同住宅建設事業に係る確認依頼が提出された。確認地は、周知の遺跡範囲内であり、現況畑地で遺物が多数散布していた。このため、市教委は、遺跡が所在する旨を同月に回答し、取扱いに係る協議を行った。その結果、事業者は開発事業を進めたいとのことであり、発掘調査を行うこととなった。同月、事業者から土木工事の届が提出され、10月24日に調査を開始した。

#### 道地遺跡e地点

平成19年9月、YAMAテック株式会社代表取締役山口公一氏（以下「事業者」という。）から平戸字西ノ上の資材置場建設事業に係る確認依頼が提出された。確認地は、現況山林で地表面観察はできなかったが、周知の遺跡範囲内であり、古墳と考えられる塚状の盛土があり、近隣で遺構・遺物が検出されている。このため、市教委は、遺跡が所在する旨を同月に回答し、取扱いに係る協議を行った。その結果、事業者は開発事業を進めたいとのことであり、発掘調査を行うこととなり、同年10月事業者から土木工事の届が提出された。事業者が伐採を行い、その進捗に合わせて11月15日に調査を開始した。なお、伐採木は一時的に対象地内に集積せざるを得ず、これらを搬出する間、12月5日～平成20年2月12日まで調査を中断した。



第1図 平成19年度調査市内遺跡位置図  
 (八千代都市計画基本図に加筆)



#### 蛸池台遺跡

平成19年12月、医療法人社団心和会理事長荒井壽明氏（以下「事業者」という。）から米本の駐車場建設事業に係る確認依頼が提出された。確認地は、周知の遺跡範囲内であるため、市教委は、遺跡が所在する旨を同月に回答し、取扱いに係る協議を行った。その結果、事業者は開発事業を進めたいとのことであり、発掘調査を行うこととなった。平成20年1月、事業者から土木工事の届が提出され、2月5日に調査を開始した。

## Ⅱ 各調査の概要

### 1. 向山遺跡 e 地点

#### 遺跡の立地と概要

向山遺跡は、市域の中央部やや南西寄りに所在し、新川の低地から南西に伸びる須久茂谷津に臨む台地上に立地する。本遺跡については、市教委によって4地点、(財)千葉県文化財センターによって2地点が発掘調査され、旧石器(スクレーパー、ナイフ形石器、焼礫など)、縄文時代前～中期の遺物(黒浜式、浮島式、阿玉台式など)、須恵器坏片、土坑などが検出されている。e地点は、谷津の最奥部に臨む台地上縁辺部～平坦部で、標高23m前後に位置する。現況は山林である。南に隣接する東葉高速鉄道軌道部分は、(財)千葉県文化財センターが調査し、関東ロームV層からスクレーパー・剥片や焼礫などを検出している。このため主に旧石器の資料が得られるのではないかと予想された。

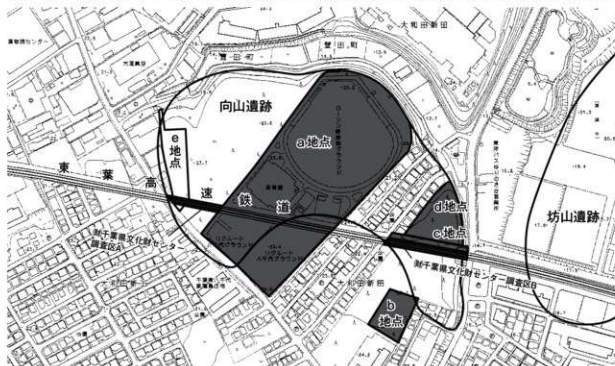
#### 調査の方法と経過

調査区を形状に合わせて10m四方のグリッドで区画し、2m×4mのトレンチを区画に合わせて規則正しく33か所264㎡分設定し、また東葉高速鉄道の軌道に平行してトレンチ4か所21㎡分を設定した。合計285㎡を人力及び重機で掘削し、遺構・遺物の検出に努めた。

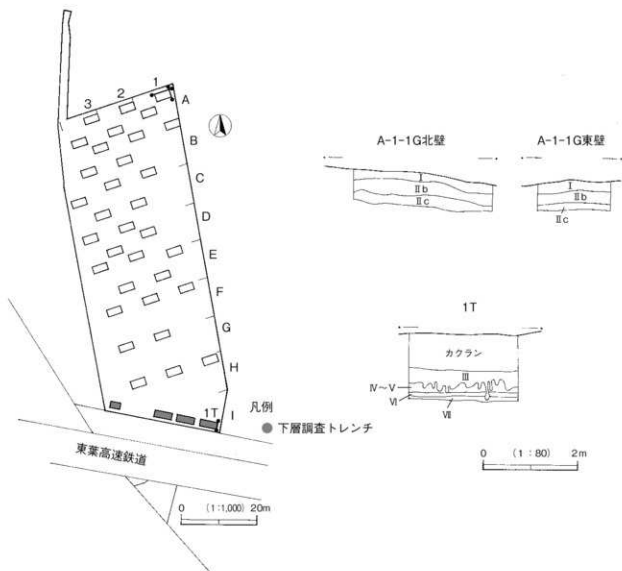
調査期間は、平成19年4月2日から10日で、2日器材搬入、トレンチ設定、2日～4日人力による掘削、下層調査。4日・5日重機による掘削。5日～9日トレンチ内精査、土層調査、実測記録作業。9日重機による埋め戻し。10日器材を撤収し、調査を終了した。

#### 調査の概要

土層の観察所見としては、調査区北東部のA-1-1Gトレンチで表土層の下に厚さ40～50cmの暗褐色土層が検出され、ソフトローム層に達した。暗褐色土層は、上が暗褐色土を主体とし、黒色土少量、



第2図 向山遺跡位置図 (S=1:5,000)



第3図 向山遺跡e地点トレンチ配置図・土層断面図

黄褐色土微量含む。しまり・粘性とも弱い。下が暗褐色土を主体とし、黄褐色土多量含む。しまり普通・粘性弱い。上がⅡb層（新期富士テフラ層）、下がⅡc層（ローム漸移層）の堆積と解釈される。東葉高速鉄道軌道部分の調査結果を考慮し、鉄道に平行してトレンチ1T～4Tを設定し、深掘りを行った。1Tでは、地表下1.4mまで掘り下げ、上層70cmまでは攪乱、その直下でⅢ層（ソフトローム層）に達し、以下Ⅳ～Ⅴ層、Ⅵ層、Ⅶ層を確認した。遺構・遺物とも検出されなかった。

#### 調査のまとめ

向山遺跡は、萱田地区遺跡群の西方にある広大な台地に立地する。萱田地区遺跡群の新川寄りでは、旧石器、縄文時代のみならず、弥生時代以降、古代集落が展開する。しかし、萱田地区遺跡群の西部に属する坊山遺跡では旧石器時代が主体となり、隣接する本遺跡においては、ほぼ旧石器・縄文時代のみとなる。さらに西方の西八千代地区では、調査事例が増加しているが、主体は旧石器・縄文時代であり、弥生・古墳時代は皆無に等しく、奈良・平安時代は散見される程度である。新川周辺との内容は対照的である。今回の調査では、向山遺跡の遺跡密度の低い地点が明らかになり、萱田地区～西八千代に及ぶ遺跡展開の動向に一資料を提示することができた。

図版1 向山遺跡e地点



(1) 調査風景



(2) トレンチ1T土層断面



(3) A-1-1G北壁土層断面



(4) A-1-1G東壁土層断面

文献

- (財)千葉県文化財センター (1994) 『八千代市沖塚遺跡・上の台遺跡他-東葉高速鉄道埋蔵文化財調査報告書-』  
八千代市教育委員会 (2002) 『千葉県八千代市内遺跡発掘調査報告書 平成13年度』(b地点)  
八千代市教育委員会 (2004) 『千葉県八千代市内遺跡発掘調査報告書 平成18年度』(d地点)

## 2. 川崎山遺跡 n 地点

### 遺跡の立地と概要

川崎山遺跡は、市域の南部中央、新川の西岸に位置する。北と南を新川の低地から入る小谷によって画された台地上一帯が遺跡である。標高は20～26mである。

市内で最も調査件数の多い遺跡で、台地の東半は全貌がほぼ明らかとなり、縁辺を中心に旧石器時代～平安時代に及ぶ遺物や集落跡が、台地中央部には縄文時代の狩猟用陥穴と近世以降の溝が検出されている。特に弥生時代後期～古墳時代中期の集落跡が主体である。今回のn地点は、現況山林、標高22m前後である。北西にh地点、東～南にc地点が隣接し、明らかに住居跡が分布する範囲内であることがわかる。

### 調査の方法と経過

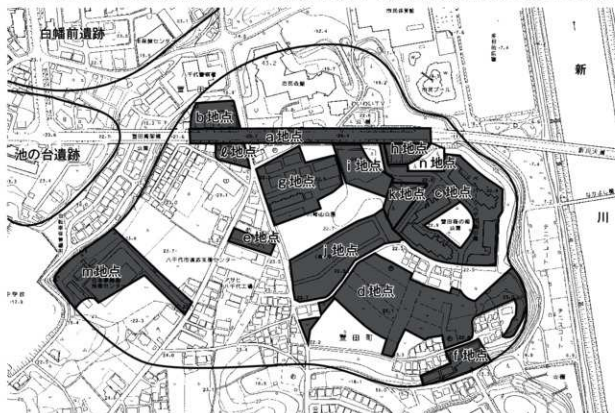
方位に合わせて調査区を区画し、1.2m×5mのトレンチを20箇所計120㎡分設定した。拡張部を合わせて126㎡分を重機で掘削し、遺構・遺物の検出に努めた。

調査期間は、平成19年4月20日から27日で、20日トレンチ設定、人力による掘削。23日・24日重機による掘削。23日～26日トレンチ内精査。26日土層調査、下層調査。27日重機による埋め戻し、器材を撤収し、調査を終了した。

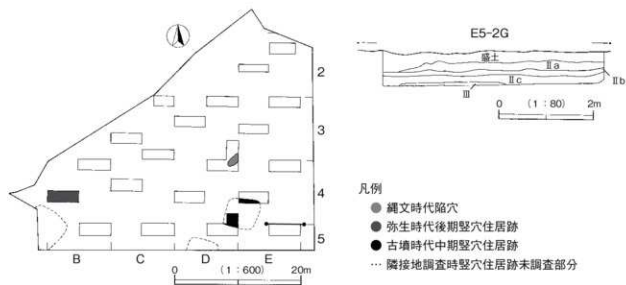
### 調査の概要

土層の観察所見としては、調査区南東部のE5-2Gトレンチ北壁で、表土は盛土、以下Ⅱa層（黒褐色土、腐食土層）、Ⅱb層（褐色土、新期富士テフラ層）、Ⅱc層（暗褐色土、ローム漸移層）、Ⅲ層（褐色土、ソフトローム）という良好な堆積を確認した。Ⅲ層までの深さは62～70cmである。

遺構は、調査区中央で縄文時代陥穴1基、西端及び南東寄りで竪穴住居跡2軒を検出した。住居跡は、



第4図 川崎山遺跡位置図 (S=1:5,000)



第5図 川崎山遺跡 n 地点遺構配置図・土層断面図

当初、弥生時代～古墳時代初頭と推定したが、後の本調査の結果、西端のものは弥生時代後期、南東寄りのものは、古墳時代中期に属するものと判明した。この他、トレンチには表れなかったが、隣接する c 地点の調査結果（八千代市川崎山遺跡調査会1999）から、c 地点第42号住居跡（弥生時代後期）と同46号住居跡（古墳時代中期）の一部が検出できるものと予想され、本調査時に調査することができた。遺物は、縄文土器、弥生土器、古墳時代土師器、石器剥片などが得られた。

#### 調査のまとめ

縄文時代陥穴、弥生時代後期・古墳時代中期の竪穴住居跡が検出され、川崎山遺跡の典型的な地点であることが確認された。c 地点と h 地点の間隙を埋める地点の様相が明らかとなり川崎山遺跡の全容解明にまた一歩近づいたと言えることができる。また、市内では比較的例の少ない古墳時代中期の資料を加えることができたのも大きな成果である。

なお、本地点は、前述したとおり平成19年度中に305mfについて、本調査及びその本整理が実施され、報告書が刊行されている（市教委2008c）。遺物は本調査出土遺物とともに整理されているので、本書では図示しなかった。

#### 文献（関連調査及び平成19年度以降のみを記載）

- 八千代市川崎山遺跡調査会（1999）『千葉県八千代市川崎山遺跡－埋蔵文化財発掘調査報告書－』（c 地点）
- 八千代市教育委員会（2008 a）『千葉県八千代市市内道跡発掘調査報告書 平成19年度』（d 地点）
- 八千代市教育委員会（2008 b）『千葉県八千代市川崎山遺跡 m 地点発掘調査報告書』
- 八千代市教育委員会（2008 c）『千葉県八千代市川崎山遺跡 n 地点発掘調査報告書』

図版2 川崎山遺跡n地点



(1) 調査前状況



(2) 調査状況



(3) E5-2G北壁土層断面



(4) D4-2G遺構検出状況



(5) D5-2G遺構検出状況



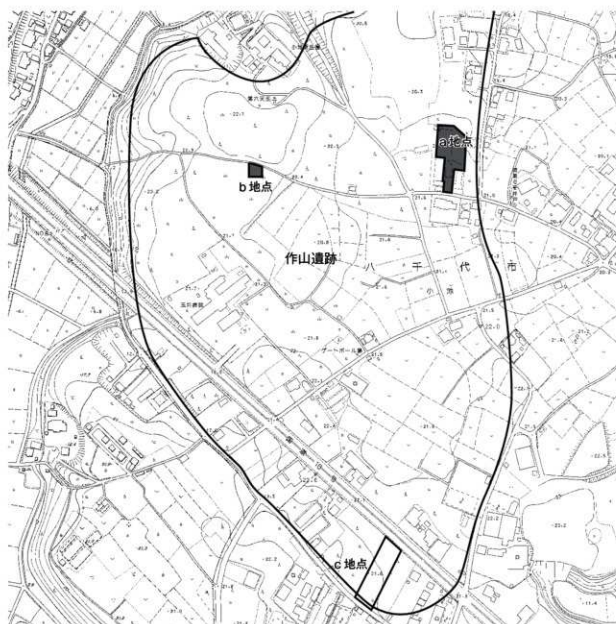
(6) トレンチ掘削状況

### 3. 作山遺跡 c 地点

#### 遺跡の立地と概要

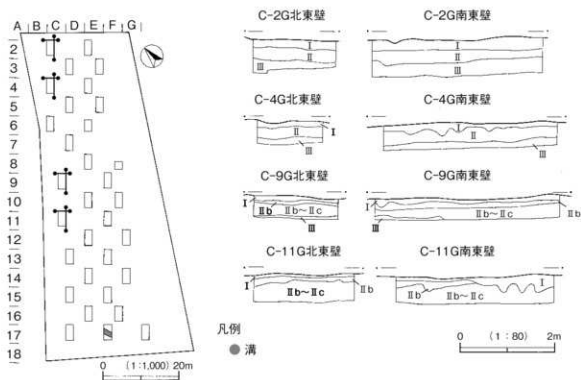
作山遺跡は、市域北西部の小池地区にある。北は神崎川、西はその支流の鈴身川によって画される台地上、標高 20～22 m に立地する。本遺跡については、2 地点が調査されており、a 地点では、古代方形周溝状遺構 1 基、中世火葬墓・土坑墓 25 基、中世溝 1 条が検出され、遺物は中世白磁・青磁、中世銭貨などが出土しており、15 世紀代の墓域が捉えられた（市教委 2003b）。b 地点では遺構・遺物とも出土しなかった（市教委 2007）。

今回の c 地点は、遺跡の南端に当たり、現況山林で標高は 22 m 前後である。国道 16 号側の標高が若干高い。本遺跡については全容が把握できていないので、本地点でどのような知見が得られるか、期待された。



第6図 作山遺跡位置図 (S = 1 : 5,000)





第7図 作山遺跡c地点遺構配置図・土層断面図

#### 調査の方法と経過

調査区を形状に合わせて5m四方のグリッドで区画し、2m×4mのトレンチを30箇所、1m×4m及び1m×6mのトレンチを各1箇所合計250㎡分を設定した。人力及び重機でこれらを掘削し、遺構・遺物の検出に努めた。

調査期間は、平成19年4月27日から5月9日で、4月27日トレンチ設定。27日～5月1日人力による掘削。28日～5月7日土層調査、実測記録。1日・2日重機による掘削。2日～7日トレンチ内精査。7日・8日下層調査。8日重機による埋め戻し。9日器材を撤収し、調査を終了した。

#### 調査の概要

土層の観察所見としては、調査区北部のC-2G、C-4Gでは、表土層が厚さ6～30cm、暗褐色土層（黄褐色土微量含む。しまり・粘性とも弱い。）が厚さ10～30cm堆積し、地表下40～53cmでソフトロームに達する。調査区中央部のC-9G、C-11Gでは、表土層が厚さ5～40cm、明褐色土層（暗褐色土少量含む。しまり普通、粘性弱い。）が厚さ6～20cm、暗褐色土層（しまり普通、粘性弱い。）が厚さ10～42cm堆積し、地表下34～63cmでソフトロームに達する。

遺構は、調査区南西端のF-17Gで溝が1条検出された。幅80～93cm、深さ7cm程度であった。覆土は、暗褐色土主体で黄褐色土を中量、黒色土を微量含む、しまり・粘性とも弱い。溝の伴出遺物は無いが、近・現代と推定する。

遺物は、奈良・平安時代の土師器・須恵器各少量が出土したが、小片であり、図は省略した。

#### 調査のまとめ

本地点は、遺構・遺物ともに希薄な状況であった。

図版3 作山遺跡c地点



(1) 調査前状況



(2) C-2G南東壁土層断面



(3) C-4G南東壁土層断面



(4) C-9G北東壁土層断面



(5) F-17G溝検出状況



(6) トレンチ掘削状況

文献

八千代市教育委員会 (2003 a) 『千葉県八千代市内遺跡発掘調査報告書 平成14年度』(a 地点確認調査)

八千代市教育委員会 (2003 b) 『千葉県八千代市作山遺跡発掘調査報告書』(a 地点本調査)

八千代市教育委員会 (2007) 『千葉県八千代市内遺跡発掘調査報告書 平成18年度』(b 地点)

#### 4. 白筋遺跡b地点

##### 遺跡の立地と概要

白筋遺跡は、市城の南部中央、新川の東岸に位置する。入り江状の辺田前・沖塚前低地を南に臨む台地上、標高25～27mに立地する。遺跡範囲内には、市指定文化財の根上神社古墳があり、東には学史上著名な複合遺跡で、古代集落跡である村上込ノ内遺跡があり、西にはやはり古代集落を中心とする浅間内遺跡がある。

本遺跡では、これまでに辺田前土地区画整理事業に伴う調査が行われ、根上神社古墳の周溝や、南東端で平安時代の堅穴住居跡などが検出されている。今回の地点は、遺跡の北西端で、試掘によって堅穴住居跡が1軒検出されている。現況は駐車場で標高は27mである。本地点の西側は、国道16号を隔てて浅間内遺跡の調査地点があり、弥生時代後期、平安時代の堅穴住居跡や掘立柱建物跡、中近世の溝・土坑が重複して検出されている。

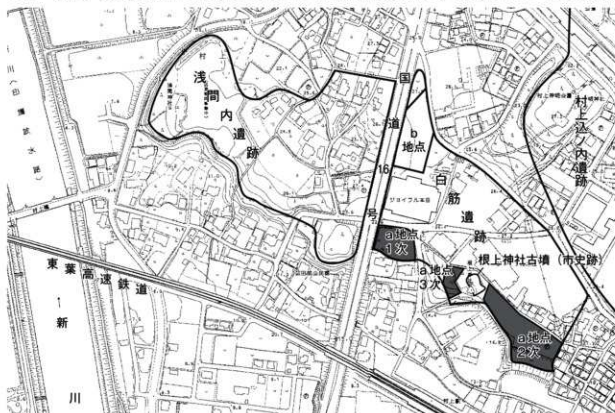
##### 調査の方法と経過

調査区を形状に合わせて5m四方のグリッドで区画し、2m×4mのトレンチを区画に合わせて規則正しく40か所を設定した。拡張部を合わせて446㎡分を重機で掘削し、遺構・遺物の検出に努めた。

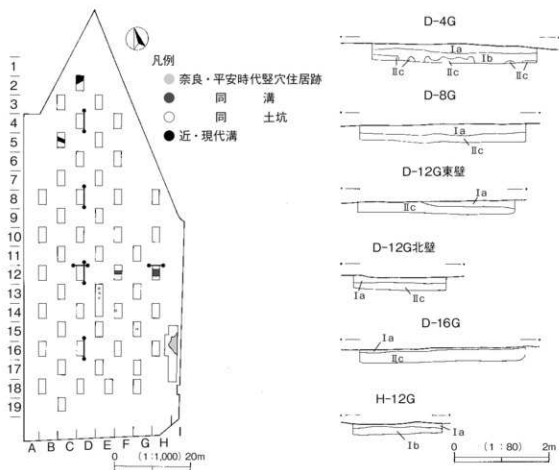
調査期間は、平成19年6月29日から7月10日で、6月29日グリッド設定。7月2日・3日重機による掘削。3日～5日トレンチ内精査。5日・6日土層調査、実測記録。9日器材撤収。9日・10日重機による埋め戻しを行い、調査を終了した。

##### 調査の概要

土層は、調査区の北から南へ向かってD-4G、D-8G、D-12G、D-16Gを観察した。最北のD-4Gで、表土層（砕石と暗褐色土の混合土。粘性無くしまり強い）、暗褐色土（ローム少量、黒



第8図 白筋遺跡位置図 (S=1:5,000)



第9図 白筋遺跡b地点遺構配置図・土層断面図

色土微量含む。粘性無くしまり強い。)、ローム漸移層(粘性ややあり、しまり強い。)が認められた。他では、暗褐色土層は認められなかった。ソフトロームまでの深さは22～39cmで、駐車場建設に伴い、削平されたことがわかる。なお、調査区東部のH-12Gでは、D-4Gと同様の土層を確認した。

遺構は、調査区南東部で試掘時に検出された奈良・平安時代の竪穴住居跡1軒がある。さらにその17mほど北に溝1条、住居跡の北西8～24mに土坑が5基検出された。他に調査区北部で近・現代の溝が2条検出された。

遺物は、奈良・平安時代の土師器・須恵器が出土した。

#### 調査のまとめ

今回の調査で、白筋遺跡の新たな地点が発見された。古代集落跡を中心に遺跡密度の高い村上地区に奈良・平安時代の新資料を加えることになり、意義深いことと考えられる。

なお、本地点は、平成19年度中に806mについて本調査及びその本整理が実施され、報告書が刊行されている(市教委2008)。遺物は本調査出土遺物とともに整理されているので、本書では図示しなかった。

図版4 白筋遺跡b地点



(1) 調査前状況



(2) 住居跡検出状況



(3) C-5G溝検出状況



(4) トレンチ掘削状況

文献

八千代市教育委員会 (2002) 『千葉県八千代市市内道路発掘調査報告書 平成13年度』(a地点第3次)

八千代市道路調査会 (2007) 『千葉県八千代市浅間内道路・白筋遺跡・沖塚遺跡 八千代市辺田前土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書』(a地点第1次・第2次)

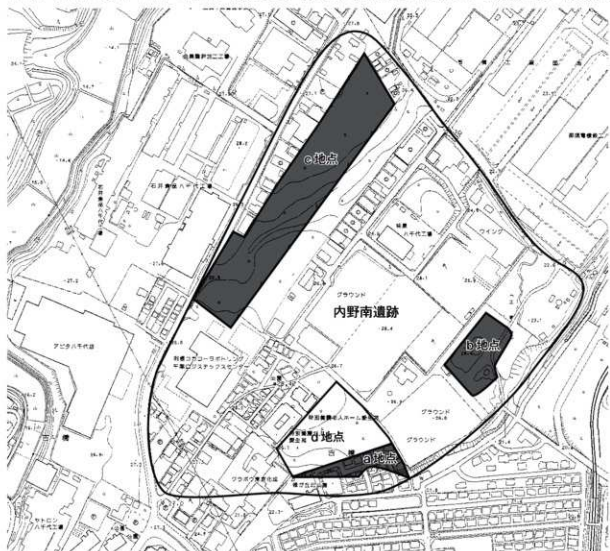
八千代市教育委員会 (2008) 『千葉県八千代市白筋遺跡b地点発掘調査報告書』

## 5. 内野南遺跡d地点

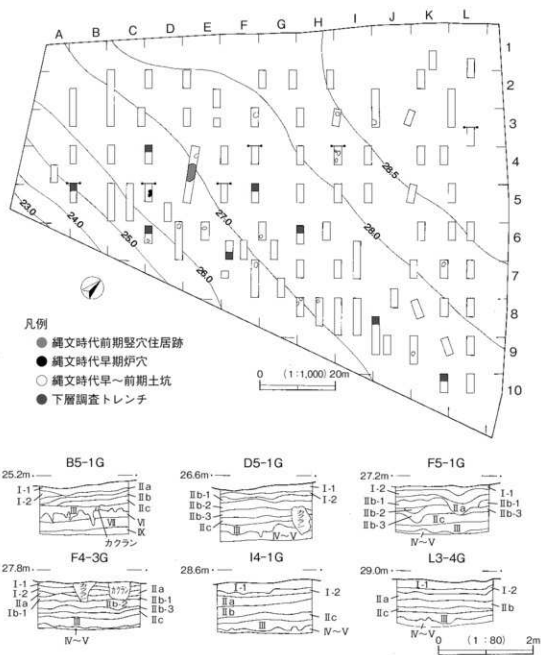
### 遺跡の立地と概要

内野南遺跡は、市域の西部、吉橋字内野に所在する。新川支流の桑納川の低地からは、南西に台地を刻む谷が並行するように3箇所あり、東から津金谷津、花輪谷津、石神谷津と呼ばれる。花輪谷津の奥部、谷口から約2kmのところ、谷津を南に臨む台地上に内野南遺跡は立地している。東葉高速鉄道「八千代緑が丘駅」の北東約500mである。今回の調査地点は、台地上平坦部から縁辺にかかるところで、概ね北東から南西に向かって傾斜しており、標高は23～28mである。現況は山林で、遺物散布の地表面観察はできなかった。塚などの明瞭な地上遺構は見えなかったが、区域内の北西部に緩やかな窪みが観察され、遺構の存在を示すものかと期待した。しかし調査の結果、近年の擾乱を反映したものとわかった。

内野南遺跡は、平成10年に開発行為に先行して実施した試掘によって発見された。この時の調査(a地点)では、縄文時代早期茅山上層式期などの炉穴5基、早期三戸式期・前期浮島式期の土坑8基、奈良時代の竪穴住居跡1軒、その他縄文早期稲荷台式、前期黒浜式、中期加曾利E式、後期加曾利B式の土器片や石器(敲石・石皿・磨石)、焼礫などが検出された(市調査会2000)。b地点では、縄文時代



第10図 内野南遺跡位置図 (S = 1 : 5,000)

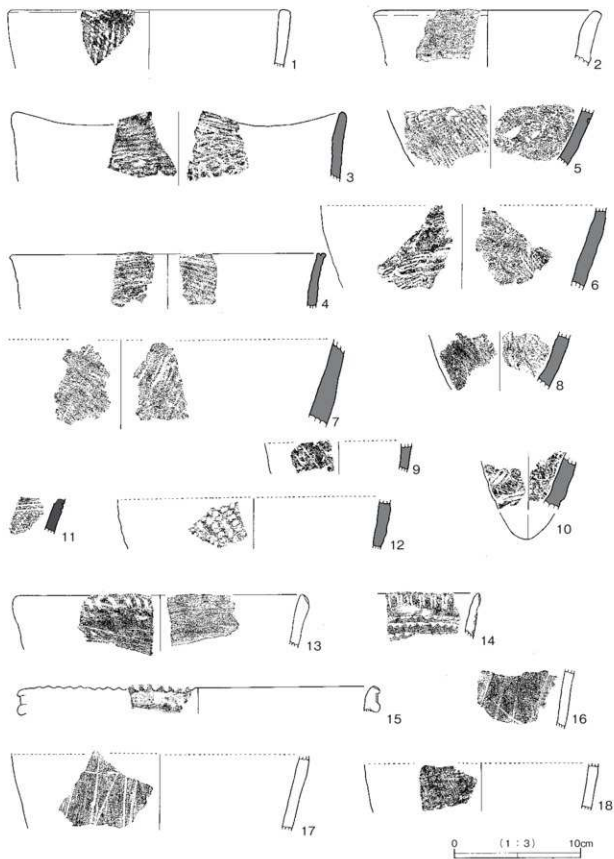


第11図 内野南遺跡d地点遺構配置図・土層断面図

の陥穴・土坑各1基と早期井草式・中期加曾利E式・後期加曾利B式の土器片が確認された(市教委1999)。c地点では、縄文時代の陥穴5基・土坑2基と前期後半・中期前半・後期中葉の土器片、礫・剥片、土坑から石鏃1点などが確認された(市教委2004)。まとめると、本遺跡は、縄文時代早期～前期を中心に後期まで断続的に営まれており、長い空白期間の後、奈良時代の住居跡1軒のみが確認されている、ということになる。今回の地点(d地点)は、a地点の北西に隣接したところであり、縄文早期～前期の炉穴群・土坑群や奈良時代の遺構の展開が予想された。

#### 調査の方法と経過

調査区の形状に合わせて10m四方のグリッドに区画し、さらにその中を5m四方の小グリッド4つに区画し、アルファベットと数字の組合せて表現した。その区画内に2m×5mのトレンチを設定した。



第12図 内野南遺跡d地点出土遺物(1)





第13図 内野南遺跡d地点出土遺物(2)

第1表 内野南遺跡d地点出土遺物観察表

縄文土器				○粘土 ○器表 ●色調		形状・調整・文様などの特徴		時期等
遺物No.	出土位置	器形	部位	径元値 (cm)				
1	C 4-1 G	深鉢	口縁	口内径21	○細砂・粗砂・粗砂多 ○良 ●褐色		外) 器表文。口縁付近斜位。以下縦位。 内) 縦方向ナガ・ミガキ。	早期余飯式
2	G 6-1 G	深鉢	口縁	口内径16.8	○細砂多。粗砂。器砂 ○良 ●外) 褐色。内) 褐色色		外) 縦方向へ凸張り。縦位。 内) 縦方向ナガ・ミガキ。	早期余飯式
3	D 5-4 G	浅灰口縁深鉢	口内径25.6	○細砂。粗砂。器砂 ○不良 ●褐色色		外) 縦方向余飯文。 内) 縦方向・横方向余飯文。	早期余飯文	
4	D 6-1 G	深鉢	口内径24.8	○細砂。粗砂。粗砂 ○良 ●外) 褐色。器褐色。内) 褐色 顔れ口) 褐色 ○小良		口縁上に沈線。 外) 縦方向余飯文。 内) 縦方向ナガ・ミガキ。	早期余飯文	
5	H 8-1 G	深鉢	胴下部	最大外径16.2	○細砂。粗砂。器砂 ○不良 ●外) 褐色。褐色。内) 灰褐色 顔れ口) 粗灰色		外) 縦方向余飯文。縦交列。 内) ナガ。	早期余飯文
6	G 7-4 G	深鉢	胴部	最大外径22.4	○細砂。粗砂。粗砂多。粗砂。赤褐色多 ○良 ●外) 褐色色。器褐色。内) 褐色 顔れ口) 灰褐色		外) 縦方向余飯文。ナガ。 内) ナガ。	早期余飯文
7	D 5-4 G	深鉢	胴部	最大外径35.2	○細砂。粗砂。粗砂 ○不良 ●外) 灰色。褐色。内) 淡灰褐色		外) 不明。縦方向余飯文。沈線。 内) ナガ。 厚子最大17ミリ	早期余飯文
8	F 7-3 G	深鉢	胴下部	最大外径11.1	○細砂。粗砂 ○やや不良 ●外) 淡褐色。器褐色。内) 褐色。灰白色		外) 縦方向の隆線。 内) ナガ。	早期余飯文
9	H 8-1 G	土坑甕上	小片	最大外径11.5	○細砂。粗砂少 ○やや不良 ●外) 淡褐色色。内) 淡灰褐色		外) 縦方向へ沈線。 内) ナガ。	
10	D 5-4 G	深鉢	底部付近 瓦底少	最大外径7.4	○細砂。粗砂。粗砂 ○不良 ●外) 淡褐色。器褐色。内) 淡褐色		外) 縦方向・横方向余飯文。 内) 厚子最大12ミリ	早期余飯文
11	E 4-1 G	深鉢少 小片	胴部		○細砂。粗砂。粗砂 ○良 ●外) 褐色。褐色。内) 褐色色 顔れ口) 褐色色		外) 縦方向余飯文。ナガ。 内) ナガ。	前期浮島式
12	G 7-4 G	深鉢	胴部	最大外径21.6	○細砂。粗砂。器砂 ○やや不良 ●褐色		外) 縦・横文。 内) ナガ。	
13	G 7-4 G	深鉢	口縁	口内径22.8	○細砂・粗砂 ○良 ●外) 褐色色。内) 褐色色。褐色。器褐色		外) 口縁に2本平位の縦沈線。横・縦方向の縦い沈線。 内) 縦方向ナガ・ミガキ。横線跡。	前期浮島式
14	E 6-3 G	深鉢	口縁	口内径43.4	○細砂。粗砂多 ○良 ●外) 褐色色。灰色。内) 淡灰褐色。淡褐色色		外) 口縁に2本平位の縦沈線。三角文。脊 付文。 内) 縦方向ナガ。	前期浮島式
15	G 6-1 G	深鉢	口縁	口内径27.4	○細砂多。粗砂少 ○良 ●褐色色		口縁上平位。 外) 口縁に幅広(5-10ミリ)の沈線。輪軸形。 内) 縦方向ナガ・ミガキ。	前期浮島式
16	E 6-2 G	深鉢	胴部	最大外径33.2	○細砂多。粗砂少 ○良 ●褐色色		外) 縦方向沈線。ミガキ。 内) ナガ。ミガキ。	前期浮島式
17	E 6-3 G	深鉢	胴部	最大外径23.4	○細砂多。粗砂少 ○良 ●外) 褐色色。内) 褐色。褐色		外) 縦方向沈線。ミガキ。 内) ナガ。縦方向ミガキ。	前期浮島式
18	D 5-4 G	深鉢	胴部	最大外径18.4	○細砂。粗砂少 ○やや不良 ●外) 灰褐色。淡褐色。内) 灰褐色		外) 縦方向の縦い沈線(赤褐色)。 内) ナガ。ミガキ。	前期浮島式
19	G 6-1 G	深鉢	胴部	最大外径21.8	○細砂。粗砂多 ○良 ●褐色色。器褐色		外) 縦方向の縦い沈線(赤褐色)。 内) ナガ。	前期浮島式
20	E 4-1-2 G	深鉢 小片	胴部		○細砂。粗砂多 ○良 ●外) 淡褐色色。内) 褐色		外) 平長管管による平行沈線。 内) 縦方向ミガキ。	前期浮島式
21	E 6-3 G	深鉢	最大外径17.8	○細砂。粗砂多 ○良 ●外) まだら。褐色。器褐色。淡褐色。内) 淡褐色		外) 縦い沈線。三角文2列。 内) 縦方向ナガ・ミガキ。	前期浮島式	
22	E 6-3 G	深鉢	胴部	最大外径16	○細砂。粗砂多 ○良 ●外) 赤褐色。褐色。内) 褐色。器褐色		外) 大きな三角文2列。 内) ヘタ開り後ナガ。	前期浮島式
23	D 5-4 G	深鉢	胴部	最大外径17.9	○細砂。粗砂 ○良 ●外) 灰褐色。器) 淡褐色。褐色		外) 三角文。押引文。 内) ナガ。	前期浮島式
24	D 6-3 G	深鉢	胴部	最大外径15.8	○細砂。粗砂 ○やや不良 ●外) 褐色色。内) 褐色褐色		外) 押引文4列。 内) ナガ。ミガキ。	前期浮島式
25	F 5-1 G	深鉢	胴部	最大外径16.8	○細砂。粗砂 ○不良 ●外) 褐色。器褐色。内) 灰褐色。褐色		外) 三角文か。乳花状で不明。 内) ナガ。	前期浮島式
26	E 4-1-2 G	深鉢	胴部	最大外径17.1	○細砂。粗砂多 ○小良 ●外) 淡褐色。淡褐色色。褐色。内) 褐色褐色		外) 三角文の後押引文。縦方向ミガキ。 内) 縦方向ナガ・ミガキ。	前期浮島式
27	E 6-3 G	深鉢 小片	胴部		○細砂。粗砂 ○良 ●外) 褐色。内) 淡灰褐色		外) 三角文沈線。 内) 縦方向ナガ・ミガキ。	前期浮島式
28	D 6-3 G	深鉢	胴部		○細砂。粗砂 ○小良 ●外) 淡褐色。内) 灰色。淡褐色		外) 大きな三角文。 内) ナガ。ミガキ。	前期浮島式
29	K 7-3 G	深鉢少 土坑甕上 小片	胴部		○細砂多。粗砂 ○やや不良 ●外) 褐色色。内) 淡褐色色。粗灰褐色		外) 不明。ナガ。ミガキ。 内) ナガ。	前期後半
30	D 5-4 G	深鉢	底部	底径7.4	○細砂。粗砂 ○やや不良 ●外) 褐色。淡褐色。内) 淡褐色		外) ナガか。 内) ナガ。ミガキ。	前期後半
31	G 6-1 G	深鉢少 小片	胴部		○細砂 ○良 ●外) 褐色。器褐色。内) 褐色		外) 深く縦い沈線が格子状に引かれる。 内) ナガ。ミガキ。	後期加賀貝皿2式
32	D 2-1 G	深鉢	胴部 胴上部少	最大外径25.4	○細砂。粗砂。赤褐色多 ○良 ●外) 褐色。褐色色。内) 褐色褐色		外) 横文。縦方向余飯文。 内) ナガ。横方向ミガキ。	後期加賀貝皿3式
土製品				○粘土 ○器表 ●色調		形状・調整・文様などの特徴		時期等
遺物No.	出土位置	器種	残存状態	計量値 (ml)				
33	D 5-4 G	土器片打割	胴部	55×45×厚9 11, 重さ32.5g	○細砂。粗砂。粗砂 ○やや不良 ●外) 褐色色。内) 淡褐色		円形。一部欠損。縁調整部は一部平直。	早期余飯文

石函

遺物No	出土位置	器種	残存状態	計測値 (㎖)	使用面などの特徴	時期等
34	D 6-1 G	打製石斧片	約1/5	33×65×厚516 重539.1g	一面に自然面が残る	縄文時代早期
35	E 4-1 G	磨石・磁石	約2/3	72×51×厚537 重5165.4g	磨き痕あり。敲打痕顕著。	縄文時代前期
36	G 7-4 G	磁石	約3/4	75×59×厚526 重5265.5g	敲打痕4箇所。	縄文時代早～前期
37	G 7-4 G	磨石・磁石	約1/3	82×72×厚536 重5237.7g	敲打痕4箇所。顔面に不明瞭だが磨り痕あり。	縄文時代早～前期
38	D 6-1 G	磨石	約1/5	60×31×厚541 重51129.9g	明らかな平磨面あり。	縄文時代早期
39	D 5-4 G	磨石片	約1/5	60×25×厚538 重548.6g	わずかに赤みを帯び、焼けている。	縄文時代早～前期

a 地点の調査結果を参考にして、遺構が存在すると予想されるにはトレンチを増設した。現況が山林であるため、木を避けて設定したところも多い。970㎡分を掘削して遺構・遺物の検出に努めた。また、部分的にローム層を掘削し、32㎡分の下層調査を行った。

調査期間は、平成19年7月12日～8月14日で、7月12日・18日器材搬入、基準杭の設定。19日～23日トレンチ設定。23日・24日人力による掘削。25日～30日重機による掘削。25日～8月3日トレンチ内精査、遺構・遺物の検出、適宜写真撮影。3日～7日土層調査。6日～9日下層調査。10日遺物水洗、器材撤収。13日・14日重機によるトレンチ埋め戻しを行い、現場調査を終了した。

#### 調査の概要

土層については第11図に示した。土層の観察は、基本的にトレンチの北西壁で行った。以下に各層の概略を述べる。I層(表土層)は、層厚20～30cmで、上下に分けたが、下部の方は、一部II a層(腐食土層)を含んでいるかもしれない。暗褐色～褐色土で、屑粒状の脆い部分が多く、可塑性は弱い。細根や主根に富む。スコリア等はほとんど認められなかった。II a層は、暗褐色～褐色土。層厚2～20cmと不安定であるが、I層下部との峻別が難しかったためであろう。II b層(新期富士テフラ層)は、暗褐色～褐色土で、やや明るい褐色土が斑状に含まれる。標高の低いB 5-1 Gでは層厚10cm前後であったが、縁辺部のD 5-1 G・F 5-1 G・F 4-3 Gでは、層厚40～50cmあり上中下に分層した。D 5-1 Gの観察では、II b層下部を掘り込んで遺構が造られていると判断した。台地上平坦面のI 4-1 G・L 3-4 Gでは層厚10～20cmである。II c層(ローム漸移層)はIII層(ソフトローム層)との区別が難しく、微妙な差で分層した。B 5-1 Gでは深掘りを行ったが、ATの上下への拡散が激しいらしく、VI層の確定が困難であった。

全体的に概ね良好な土層の堆積を認めたが、場所によっては、褐色土の厚さが80cmに及ぶところがあり、しかも変化に乏しく分層に苦慮する場合があった。

遺構は、竪穴住居跡(縄文前期浮島式期)1軒、炉穴(早期条痕文期)1基、土坑(早期～前期)17基を確認した。覆土は、褐色土が主体で、竪穴住居跡の範囲に不明瞭なところがあったが、その他は比較的明瞭であった。

遺物は、総数97点で、縄文土器片75点(縄文早期稲荷台式1点・条痕文系25点、前期黒浜式4点・浮島式33点、中期後半1点、後期中葉4点など)、石器6点(磨石兼敲石2点、磨石2点、敲石1点、打製石斧1点)、焼礫13点、チャート剥片1点などであった。これらの中から39点を抽出して第12・13図に掲載した。

#### 調査のまとめ

今回の調査で、縄文時代早期～前期を中心とした遺構の展開が確認された。a 地点の調査結果と同様の、あるいはより濃密な遺構・遺物の分布が期待できる地点であることがわかった。縄文時代以外の要素は無く、a 地点に存在した奈良時代住居跡に関連する知見は得られなかった。

図版5 内野南遺跡d地点(1)



(1) 遺跡遠景 (中央の林)



(2) 調査前状況



(3) B5-1G土層断面



(4) F4-3G土層断面



(5) D5-1G遺構検出状況



(6) E6-3G遺構・遺物検出状況

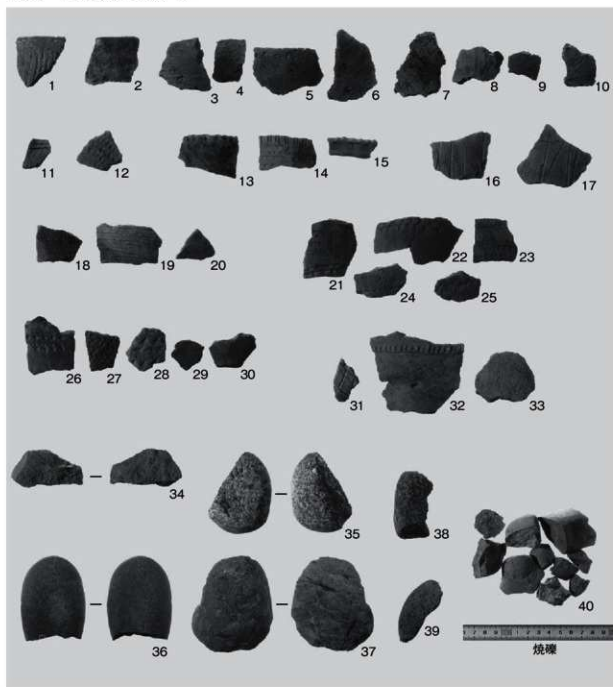


(7) F3-3G遺構検出状況



(8) トレンチ掘削状況

図版6 内野南遺跡 d 地点 (2)



出土遺物 (1～39は、第12図・第13図の番号と一致)

なお、この地点については、平成19年度中に1,600㎡を対象として本調査及びその本整理が実施され、報告書が刊行されている(市教委2008)。縄文時代早期後半～前期後半を中心とする竪穴住居跡8軒、陥穴1基、炉穴5基、ピット・土坑182基、道路状遺構1条が調査された。

文献

- 八千代市教育委員会 (1999) 『千葉県八千代市内野南遺跡発掘調査報告書 平成10年度』(b地点)
- 八千代市道跡調査会 (2000) 『千葉県八千代市内野南遺跡 a 地点発掘調査報告書』
- 八千代市教育委員会 (2004) 『千葉県八千代市内野南遺跡発掘調査報告書 平成15年度』(c地点)
- 八千代市教育委員会 (2008) 『千葉県八千代市内野南遺跡 d 地点発掘調査報告書-集合住宅建設に伴う埋蔵文化財調査-』

## 6. 役山東遺跡b地点

### 遺跡の立地と概要

役山東遺跡は、市域の北東部、保品・神野遺跡群の一角にある。新川（旧印旛沼）の低地から西に入る谷（栗谷）は、谷奥で南に屈曲しており、この屈曲部を東に臨む台地上、標高18～25.5mに立地する。

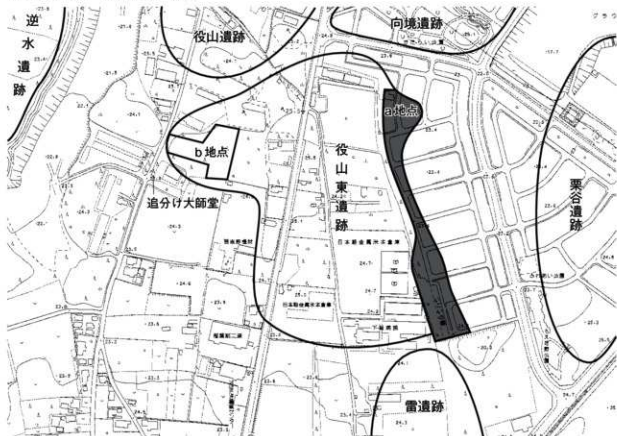
本遺跡では、(仮称)八千代カルチャータウン開発事業に伴い、面積3,330㎡の本調査が行われ、縄文時代の竪穴7基、弥生時代後期竪穴住居跡3軒、奈良・平安時代竪穴住居跡1軒、奈良・平安時代～中世の土坑7基などが調査された（八千代市遺跡調査会2004）。

今回のb地点は、新たに加えられた地点で、東方にある谷（鳥ヶ谷）に臨む標高約24mの地点である。調査区を分断して北東～南西方向に赤道があり、もとは米本と神野を結ぶ主要道路だったというが、現在は全く使われていない。調査区から南へ50mの道端に迫分け大師堂と明治41年建立の道標があり、その名残を留めている（八千代市郷土歴史研究会2001）。調査区の現況は山林で、試掘を実施したところ竪穴住居跡1軒が検出された。弥生時代後期～古墳時代前期と推定され、集落跡の展開が予想された。

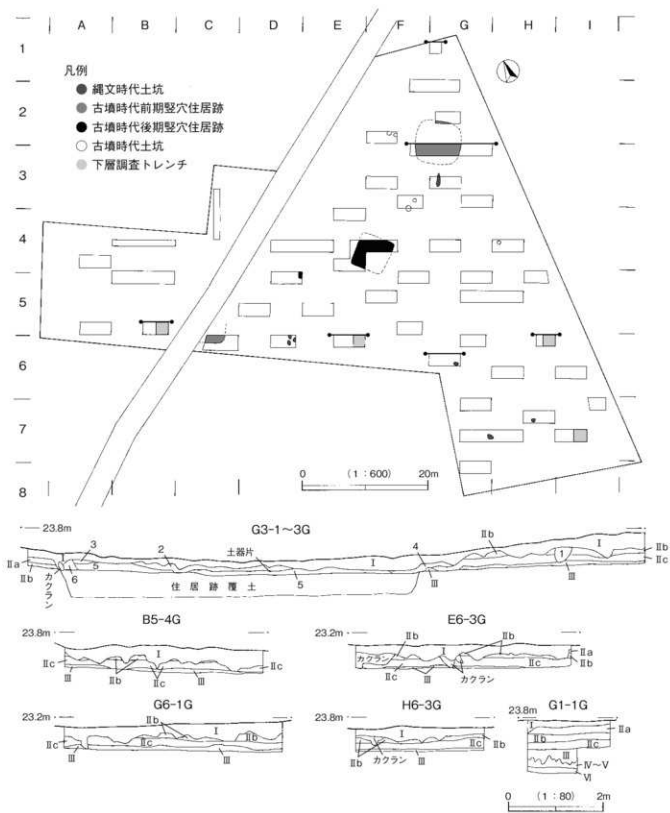
### 調査の方法と経過

調査区を形状に合わせて10m四方のグリッドで区画し、1.5m×4mのトレンチを区画に合わせて42箇所設定し、拡張分を含めて300㎡を人力及び重機で掘削し、遺構・遺物の検出に努めた。

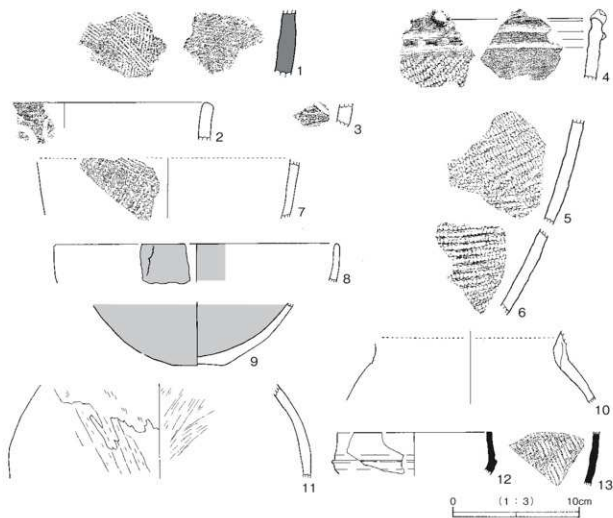
調査期間は、平成19年9月27日から10月20日で、9月27日～10月1日下草刈り。2日・3日グリッド・トレンチ設定。3日～5日人力による掘削。4日～9日重機による掘削。5日～11日トレンチ内精査、遺構検出状況写真撮影。11日・12日土層調査。15日・16日下層調査。18日～20日重機による埋め戻し、器材を撤収し、調査を終了した。



第14図 役山東遺跡位置図 (S = 1 : 5,000)



第15図 役山東遺跡b地点遺構配置図・土層断面図



第16図 役山東遺跡b地点出土遺物

#### 調査の概要

調査区北端のG1-1Gで深掘りし、良好な堆積を確認できた。I層(表土、暗褐色土層)、IIa層(黒褐色土層)、IIb層(新期テフラ層、暗褐色土層)、IIc層(漸移層、暗褐色～褐色土層)、III層(ソフトローム層)、IV～V層(ハードローム層)、VI層(AT)である。地表面の標高は23.76m、地表下60cmでIII層、1mでVI層に達した。また、調査区を北西～南東に貫くようにB5-4G、E6-3G、G6-1G、H6-3Gの土層を観察した。それぞれの地表面標高は、23.5m、22.94m、23.1m、23.6mで、E6-3G付近が低くなっている。それぞれI層(表土、暗褐色～黒褐色土層)、IIb層(新期テフラ層、黒褐色～暗褐色土層で暗褐色～褐色土が斑状に含まれる)、IIc層(漸移層、暗褐色土と褐色土が混じり合う)、III層(ソフトローム層)を確認した。I層は、厚さ概ね20～30cmで厚いところは46cmに達した。部分的に屑粒状の脆い土である。E6-3GではIIa層をわずかに確認した。ソフトローム層までの深さは32～58cmで、概ねこの層で遺構検出を行った。

検出遺構は、縄文時代土坑7基、古墳時代前期竪穴住居跡2軒、古墳時代後期竪穴住居跡2軒、古墳



第2表 役山東遺跡b地点出土遺物観察表

縄文土器							
遺物%	出土位置	器形	部位	復元額 (cm)	○胎土 ○器表 ●色調	整形・調整・文様などの特徴	時期等
1	A4-4 G 覆土	深鉢	胴下部	最大外径34	○細砂、細砂、細砂少 ●外) 褐色、褐色少 ●内) 淡灰褐色	外) 斜方向の条痕文 (有期目線による)。 内) 横方向ナギ。	早期条痕文
2	G3-1- 3 G 住居跡覆土	深鉢	口縁	口内径21.6	○粗砂 ○貝 ●外) 灰褐色、褐色 内) 暗褐色	外) 太くしっかりした沈濁。 内) 横方向ナギ。	中期加曾科E式
3	D4-4- E4-2 G 目皿	深鉢	胴部		○粗砂 ○貝 ●赤褐色	外) 太くしっかりした沈濁。縄文土器。 内) 横方向ナギ。	後期加之内式c
4	D6-3 G 目皿	深鉢	口縁	口内径39.6	○粗砂 ○貝 ●外) 淡褐色 内) 淡褐色	口縁土に突筋。 外) 凹状のある隆文、縄文土器 (面は横長)。 内) 太く強い沈濁2条。横方向ナギ。	後期加之内式 5・6と同一体
5	D6-3 G 目皿	深鉢	胴上部		○粗砂 ○貝 ●灰赤褐色	外) 縄文土器が全面、横長の筋と深い凹あり。 内) 横方向ナギ。	後期加之内式 4・6と同一体
6	D6-3 G 目皿	深鉢	胴下部		○粗砂 ○貝 ●外) 褐色 内) 褐色	外) 縄文土器が全面、丸い筋。 内) 横方向ナギ。	後期加之内式 4・5と同一体
7	G7-4- 目7-2 G 土灰層上	深鉢	胴部	最大外径206	○粗砂、細砂 ○貝 ●外) 淡褐色、褐色 内) 淡灰褐色	外) 縄文土器が全面、斜方向条筋。 内) ナギ、ミナギ。	後期加曾科E式

土器類							
遺物%	出土位置	器形	部位	復元額 (cm)	○胎土 ○器表 ●色調	整形・調整・文様などの特徴	時期等
8	G3-4 G	鉢	口縁	口内径22.4	○粗砂、細砂 ○貝 ●赤褐色 (赤砂)	外) 横方向ナギ。 内) 横方向ナギ。	古墳時代前期
9	G3-4 G	鉢	胴下部- 皿部	底径84	○粗砂、細砂少 ○貝 ●外) 暗赤褐色 (赤砂の微筋)、黒色。 ●内) 赤褐色 (赤砂)	外) ナギ。 内) ナギ。	古墳時代前期
10	E4-F4 住居跡上	甕	胴部- 胴上部	胴部外径15	○粗砂少、細砂 (石灰、長石) 多 ○貝 ●外) 褐色、灰色、淡褐色 内) 淡褐色	外) ナギ、ミナギ。 内) ナギ。	古墳時代前期 11と同一体
11	E4-F4 住居跡上	甕	胴上部	最大外径24	○粗砂少、細砂 (石灰、長石) 多 ○貝 ●外) 暗赤褐色、黒色、灰褐色 内) 淡褐色	外) 上半ナギ。下半へり開り。 内) へり開り、ナギ。	古墳時代後期 10と同一体

須恵器							
遺物%	出土位置	器形	部位	復元額 (cm)	○胎土 ○器表 ●色調	整形・調整・文様などの特徴	時期等
12	E4-F4 住居跡上	杯	口縁- 体部	口内径12.2	○長石細砂 ○貝、彫刻 ●灰色	口縁成形。 外) 彫刻。ナギ。 内) ナギ。	
13	G3-1- 3 G 住居跡上	甕	胴部		○灰色野土、細砂 (長石少) ○貝 ●外) 灰白色、自然色 内) 灰色	外) 叩き。ナギ。 内) ナギ。	

時代土坑5基であった。調査区北部のG2・G3G付近は、地表面の観察で明らかに窪んでいた。そこでここにG3-1-3Gトレンチを設定し掘削したところ、一辺7m以上の規模の竪穴住居跡が検出された。土層を観察し窪みの高低差は60cmであることがわかったが、この窪みが住居跡に起因するのかわかぬか、この観察からは明らかにできなかった。なおG3-1-3Gの土層1は暗褐色土、土層2-6は黒褐色土で5が最も黒く、2がそれに次いだ。このように住居跡の覆土は黒褐色土主体で、土坑は暗褐色土～褐色土が主体であった。

遺物は、合計59点を得た。土師器 (古墳時代前期、後期) が38点と最多で、縄文土器 (早期条痕文、中期加曾科E式、後期加之内2式) 17点、須恵器2点などである。13点を抽出して図化した。

#### 調査のまとめ

今回、縄文時代、古墳時代前期・後期を中心とする新たな地点が明らかとなった。今回の地点の北西140mに当たる役山東遺跡a地点の確認調査では、土層の遺存状態が不良だったためか、遺構・遺物とも検出されなかった (市教委2008)。東方の栗谷に臨む一帯は、向境遺跡・塚廻遺跡等が展開しており、鳥ヶ谷を隔てた西には、逆水遺跡がある。このような周辺状況の中で、鳥ヶ谷を東に臨む地区にも遺跡が展開すると考えられ、今回の調査を嚆矢として今後明らかになって行くものと期待される。

#### 文献

- 八千代市郷土歴史研究会 (2001) 『ふるさと再発見 八千代の道しるべ』  
 八千代市遺跡調査会 (2004) 『千葉県八千代市栗谷遺跡 役山東遺跡 雷南遺跡 雷道遺跡 (仮称) 八千代カルチャータウン開発事業関連埋蔵文化財調査報告書1-第3分冊-』 (a地点)  
 八千代市教育委員会 (2008) 『千葉県八千代市逆水遺跡f地点 北裏遺跡b地点 高津新田遺跡c地点 西山遺跡b地点 西山遺跡c地点 内野遺跡b地点 役山東遺跡a地点 川崎山遺跡k地点 ツサル山南遺跡b地点-不特定遺跡発掘調査報告書V-』

図版7 役山東遺跡b地点



(1) 遺跡遠景 (手前は新川)



(2) 調査前状況



(3) G1-1G土層断面



(4) D6-3G遺物出土状況



(5) G3-1~3G住居跡と土層断面



(6) トレンチ掘削状況



(7) 出土遺物 (番号は、第16図と一致)

## 7. 白幡前遺跡 c 地点

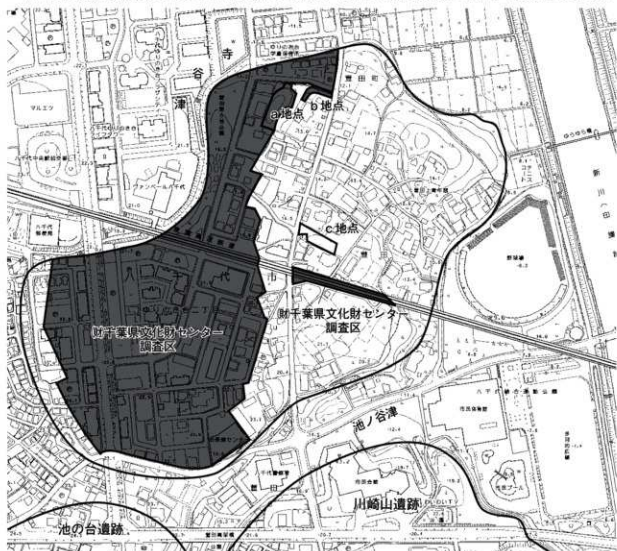
### 遺跡の立地と概要

白幡前遺跡は、市域の南部中央、新川西岸の台地上及び低台地（千葉段丘面）上にある。標高は、12～24mである。

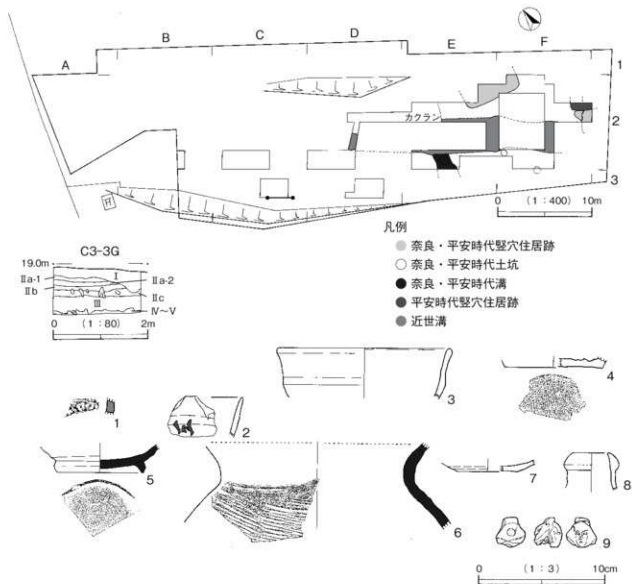
本遺跡の西平94,026㎡については、萱田地区特定土地区画整理事業の実施に伴い、(財)千葉県文化財センターが昭和54(1979)年8月～昭和63(1988)年9月まで発掘調査を行った。その結果、縄文時代を除く旧石器時代～奈良・平安時代の遺構・遺物が数多く検出された。特に古代集落跡としては、竪穴住居跡279軒、掘立柱建物跡150棟、墨書土器や瓦塔など豊富な内容で、八千代市のみならず千葉県を代表する遺跡と評価されている。他に遺跡東部では東葉高速鉄道の建設に伴う調査が、(財)千葉県文化財センターによって平成2(1990)年12月～翌年8月に行われ、奈良・平安時代の竪穴住居跡17軒などが検出された(上の台遺跡として調査・報告。同遺跡は平成9年、白幡前遺跡に統合された)。

遺跡北部では、平成13年度に市教委によって調査が行われ、奈良・平安時代の竪穴住居跡19軒、掘立柱建物跡6棟などが検出された(市教委2003)。

今回のc地点は、遺跡の中央やや北東寄りの標高16～19mの畑地である。土師器・須恵器などの破片



第17図 白幡前遺跡位置図 (S = 1 : 5,000)



第18図 白幡前遺跡c地点遺構配置図・土層断面図・出土遺物

が多数散布しており、周辺の状況から考えて、奈良・平安時代の集落跡の一端が検出できるものと予想された。

#### 調査の方法と経過

調査区を形状に合わせて10m四方のグリッドで区画し、2m×5m及び2m×3mのトレンチを区画に合わせて9箇所設定し、拡張分を合わせて91㎡分を人力及び重機で掘削し、遺構・遺物の検出に努めた。

調査期間は、平成19年10月24日から11月7日まで。10月24日器材搬入、グリッド・トレンチ設定、人力による掘削。25日重機による掘削。25日～30日トレンチ内精査。31日重機による掘削。31日～11月2日トレンチ内精査、検出遺構記録、土層調査。5日遺物水洗、器材撤収。7日重機による埋め戻しを行い、調査を終了した。

#### 調査の概要

調査区の地形は、南東が高く北西に向かって低くなる。南東側のF・Eグリッドはほぼ平坦で、Eグ

第3表 白幡前遺跡c地点出土遺物観察表

縄文土器							
遺物%	出土位置	器形	部位	計測値 (cm)	○粘土 ○器表 ●色調	整形・調整・文様などの特徴	時期等
1	F2-3G 1層	深鉢小	小片		○織物、磁砂 ○貝 ●外) 淡褐色 内) 灰褐色	外) 縄文草体先頭の環の刷痕印象が、 内) ナデ。刷出式は、市内では希少なため、 小片だが図化した。	前期岡山式
土器類							
2	F2-3G 1層	坏	1層		○磁砂、磁砂 ○貝 ●淡褐色	ロタロ成形。 外) ロタロ目。墨書あり。 内) ナデ	
3	E2-4G 1M	坏	1層- 後下層	口外径138	○磁砂 ○貝 ●淡褐色、淡褐色	ロタロ成形。 外) 体部下端へう張り。 内) 横方向ナデ。	
4	E2-4G 1M	甕	底部	底径78	○磁砂、磁砂 ○貝 ●外) 白色付着物。淡褐色 内) 淡褐色	ロタロ成形。 底外) 回転糸切肌。 内) 内凸強い。	平安時代
須恵器							
5	E2-4G 1層		底部	高台径 7	○磁砂、白色砂子 ○貝 ●灰白色	ロタロ成形。 内) 底部の一部に輪軸。	
6	E2-2- 4G 1M	甕	肩部付足	肩部外径152	○磁砂、灰石 ○貝 ●灰色	外) 肩部以上は横方向ナデ、以下は明き目。 内) 横方向ナデ。	
陶器							
7	F2-2G 1層	小皿	底部	底径48	○磁砂 ○貝 ●外) 褐色、灰褐色 内) 褐色	ロタロ成形。 外) ナデ。 内) ナデ、輪軸。	
8	E2-3- F2-1G 1層	磁片	1層	口外径24	○磁砂 ○貝 ●灰白色	輪軸。	古世
正産子							
遺物%	出土位置	種類	部位	計測値 (cm)	○粘土 ○器表 ●色調	整形・調整・文様などの特徴	時期等
9	F2-3G 1層	瓦面子 立体	底部	2.35×2.35× 2.25	○磁砂 ○やや貝 ●淡褐色	女性器か、中実。	古世

リッドとDグリッドの境界付近から斜面となる。この斜面は、削平され一部攪乱されていた。このため遺跡が残存したのは南東側である。奈良・平安時代の堅穴住居跡3軒、土坑2基、溝1条が検出された。F2-3Gの住居跡の重複については、当初は中世遺構と古代住居跡の重複と想定したが、その後の本調査の所見により奈良・平安時代の住居跡が重複しているものと訂正した。溝は、東葉高速鉄道部分の調査で検出されている「溝6」につながるものかもしれない。今回の地点と東葉高速鉄道の地点との距離はわずか35mである。この他調査区中央を北西～南東に貫くように近世の溝が検出された。幅3～4mの規模がある。当初は、この溝の存在がわからず、土層の把握に苦慮してしまった。

土層は、中央に規模の大きい近世溝があったことと表土が厚かったため、良好な土層を検出できず、調査区南西端のC3-3Gのみで比較的良好な堆積を確認した。I層(褐灰色土、表土層。耕作土。厚さ20～30cmであるが、40cmを越える部分もあり、調査区全体を厚く覆っていた)、II層(黒褐色土、腐食土層。下半がより暗色なので2枚に分層した)、III層(黒褐色土と褐色土が混じり合う、新期富士テフラ層)、IV層(褐色土、ローム漸移層)、V層(ソフトローム層。厚さ30～35cmあるが、細分できなかった)、VI～VII層(ハードローム層)である。ソフトローム層までの深さは50～62cm、ハードローム層までは76～90cmであった。

遺物は、合計815点を得た。うち土器が480点で最多、須恵器88点、小礫・礫片78点、陶磁器55点、鉄製品36点、粘土塊12点、馬歯4点、貝殻4点、縄文土器2点、黒曜石剥片2点、砥石2点、軽石2点、泥面子1点などである。小片が中心のため図化したのは9点のみである。

#### 調査のまとめ

予想どおり奈良・平安時代の遺構群が検出された。白幡前遺跡に新地点を追加することができた。なお、本地点の311㎡について平成19年度中に本調査が実施された。

#### 文献

- (財) 千葉県文化財センター (1991) 『八千代市白幡前遺跡-壹田地区埋蔵文化財調査報告書V-』  
 (財) 千葉県文化財センター (1994) 『八千代市沖塚遺跡・上の台遺跡地-東葉高速鉄道埋蔵文化財調査報告書-』  
 八千代市教育委員会 (2003) 『千葉県八千代市内遺跡発掘調査報告書 平成14年度』(b地点)

図版8 白幡前遺跡c地点



(1) 調査前状況-1- (背後はゆりのき台の高層建造物)



(2) 調査前状況-2-



(3) D3-3G土層断面



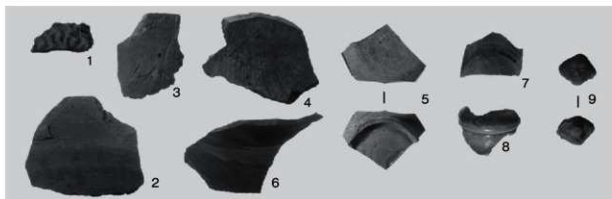
(4) E2-3G住居跡検出状況



(5) E2-2~4G溝検出状況



(6) トレンチ掘削状況



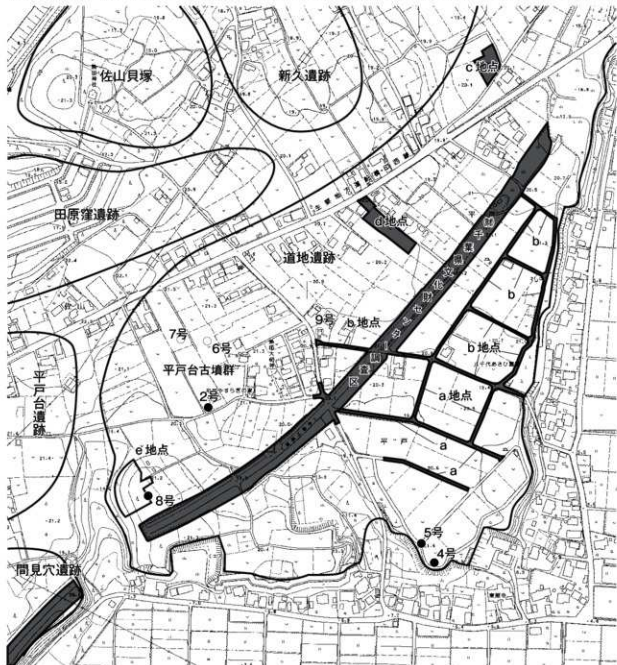
(7) 出土遺物 (番号は、第18図と一致)

## 8. 道地遺跡 e 地点

### 遺跡の立地と概要

道地遺跡は、市域の北部、新川と神崎川とが合流する地点を東に臨む台地上にある。この台地の南半の広大な面積を占めており、平戸台古墳群が重複している。標高は、17～22mである。

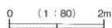
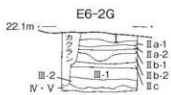
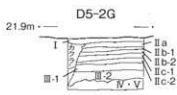
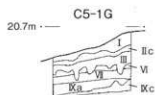
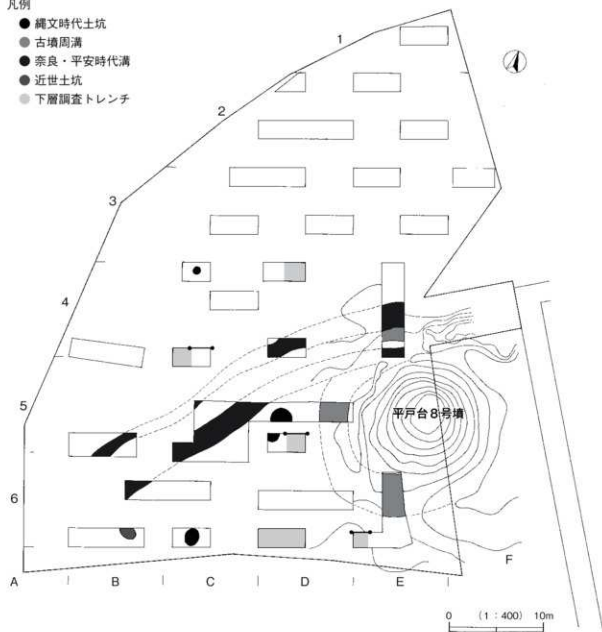
本遺跡では、昭和57年度・昭和60年度に遺跡南東部の農道敷設に伴って発掘調査が行われ、弥生時代後期の住居跡37軒、古墳時代中期の住居跡3軒などが検出された（a地点・b地点）。平成6～14年度には主要地方道船橋印西線の建設に先行して財団法人千葉県文化財センターによって発掘調査が行われ、弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡75軒・環濠1条、古墳時代中・後期の住居跡9軒、古墳2基などが検出された。平成18年度には遺跡北部（c地点）と県道船橋印西線（旧道）の南に接する地点（d



第19図 道地遺跡位置図 (S=1:5,000)

凡例

- 縄文時代土坑
- 古墳周溝
- 奈良・平安時代溝
- 近世土坑
- 下層調査トレンチ



第20図 道地遺跡e地点遺構配置図・土層断面図



第4表 道地遺跡e地点出土遺物観察表

縄文土器							
遺物№	出土位置	器形	部位	最大径 (cm)	○胎土 ○器式 ●色調	整形・調整・文様などの特徴	時期等
1	E 6-1-2 G 周溝	深鉢	胴部	小片	○粗砂 ○貝 ●外) 褐色 内) 褐色	外) 縄文式R1。内) ナテ。	前期後式
2	D 3-4 G	鉢<浅鉢	口縁	口内径17.4	○粗砂 ○貝 ●外) 灰色、淡褐色、淡褐色 内) 淡褐色、淡褐色	外) 底文は縄文R1。押引文。内) ナテ。	前期後半
3	E 4-1 G	深鉢	胴部		○粗砂 ○貝 ●外) 褐色 内) 暗褐色	外) 右側口縁による縦線。内) 縦方向ナテ。	前期後半
4	D 4-2 G 1層 E 4-1-2 G	深鉢	口縁	口内径18.2	○粗砂 ○粗砂 ○不良 ●外) 淡褐色、淡灰褐色 内) 褐色	外) 口縁上に縦線あり。外) 赤土による無筋か。輪筋痕。内) ナテ、凹凸あり。	前期後半
5	B 6-3 G ~ C 6-3 G 2層	浅鉢小	口縁	口内径16	○粗砂 ○粗砂 ○貝 ●褐色、淡褐色	外) 跡本体近所(赤土文)と縦筋。内) 縦方向ナテ。	前期末
6	E 4-1-2 G	深鉢	胴部	最大外径104	○粗砂 ○貝 ●外) 暗赤褐色 内) 暗褐色	外) 無筋目録による縦文。内) 横・縦方向ナテ。	前期浮島式
7	D 5-2-4 G	浅鉢口縁鉢	口縁	口内径29	○粗砂 ○粗砂 ○貝 ●外) 暗褐色 内) 褐色	底面溝2段。口縁上に縄の圧痕(R1か)。外) 底面。内) 縄文R1圧痕。底筋文。	中期前遺
8	D 5-2-4 G	深鉢	胴部一 取部付尻	最大外径126	○粗砂、長石細砂 ○やや小片 ●外) 淡褐色 内) 淡灰褐色	外) 文字状縦筋による縦文。内) ナテ。	前期末 ~ 中期前遺
9	C 5-2-4 G 2M	深鉢	胴部		○粗砂 ○やや小片 ●淡褐色	外) 底筋文。内) 凹凸あり。	
10	E 4-1 G	深鉢	胴部	小片	○粗砂、赤土細砂 ○貝 ●外) 赤褐色 内) 暗褐色	外) ミガキ、微隆起。赤土による無筋縄文。内) ミガキ、ナテ。	中期加賀川 式
11	B 6-3 G ~ C 6-1 G 2層	深鉢	胴部	最大外径136	○粗砂 ○貝 ●外) 暗褐色 内) 灰褐色、灰褐色、淡灰褐色	外) 微隆起、土曜か。内) ナテ、ミガキ、粗砂目録	中期加賀川 式
12	C 5-2-4 G 2M	深鉢	胴部付尻	胴部外径17.4	○粗砂 ○粗砂 ○貝 ●淡褐色、灰色	外) 底文は縦線目録か。経線より上は条筋縦筋。下は縦筋方向。内) 縦方向ナテ、ミガキ。	後期加賀川 式 粗製
13	D 2-1 G	深鉢	口縁	口内径17.4	○粗砂 ○貝 ●外) 褐色 内) 暗褐色	外) 口縁に斜突。直下に沈線。底文縄文。本面。内) 一いゝなナテ、ミガキ。	後期加賀川 式 磨光
14	D 6-1-3 G	鉢	口縁	口内径27	○粗砂 ○貝 ●外) 淡褐色、淡褐色 内) 褐色、淡褐色、淡褐色	外) 底面2条。縄文R1。内) 縦方向ナテ、ミガキ。	
15	D 5-2-4 G	浅鉢口縁鉢	口縁	口内径26.6	○粗砂 ○貝 ●外) 褐色、暗褐色 内) 暗褐色、暗赤褐色	外) 底面3条。へう開り。ナテ。内) ナテ、ミガキ。	後期
16	C 5-2-4 G 2層	鉢小	口縁	小片	○粗砂 ○貝 ●外) 褐色、暗褐色、暗褐色 内) 暗褐色	外) 口縁底面2条。ナテ。内) ナテ。	後期
弥生土器							
遺物№	出土位置	器形	部位	最大径 (cm)	○胎土 ○器式 ●色調	整形・調整・文様などの特徴	時期等
17	E 4-2 G溝 E 4-1-2 G	甕	口縁部	口内径18.6	○粗砂 ○貝 ●外) 淡褐色、淡褐色 内) 淡褐色	口縁上に筋か。内) 縦方向ナテ。輪筋痕。	後期
土器類							
18	E 6-2 G	胴部	底径16.2	○粗砂 ○貝 ●外) 赤褐色 (赤銅?) 内) 黒褐色	外) 縦方向ナテ。内) ナテ、凹凸あり。		
19	D 5-2 G	甕	口内径13.9 胴上部	○粗砂 ○貝 ●外) 褐色、淡褐色、褐色 内) 褐色、淡褐色	外) 口縁縁方向ナテ。胴部へう開り。内) 褐色方向の粗いナテ。		
石製品							
遺物№	出土位置	器形	部位	計測値 (mm)	石材	整形・調整・文様などの特徴	時期等
20	B 6-3 G ~ C 6-1 G 2M	石製網漁品 網形	定形	46×27×厚3.5 重59.8g	滑石(ナラキ)	凹凸あり。磨り削れる。貫通孔1。	

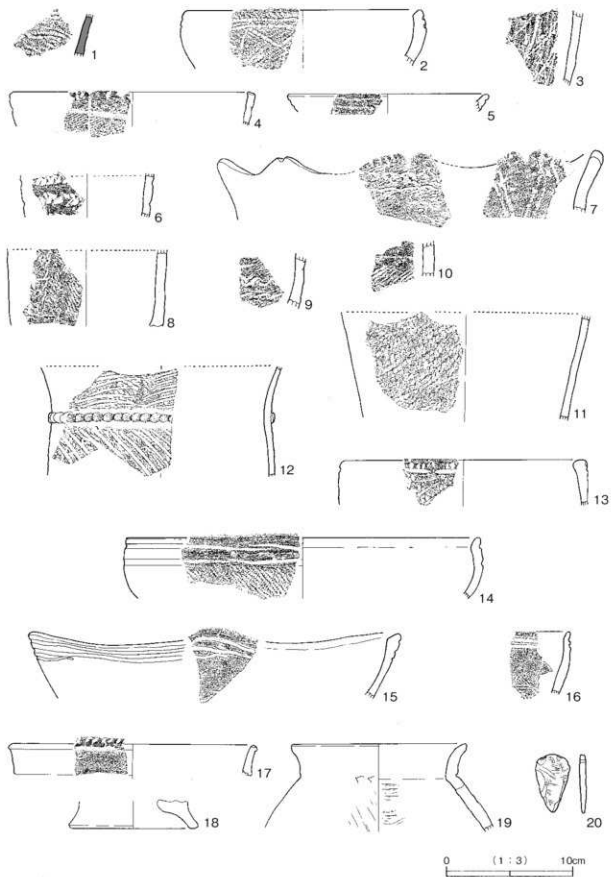
地点) が調査された。c 地点では縄文・弥生・古墳各時代の遺構が検出され、d 地点では遺構は検出されなかった。なお平成11年度には平戸台2号墳の発掘調査が行われ、箱式石棺の一部を破壊された弥生時代後期の住居跡1軒が検出された。このように弥生時代後期～古墳時代前期を中心に古墳時代後期に及ぶ集落跡が、台地縁辺部を中心として濃密に分布している遺跡である。

今回のe地点は、遺跡の南西端の標高19～21mの山林である。調査区南東部に平戸台古墳群第8号墳と名付けられた低い墳丘が存在する。

#### 調査の方法と経過

調査区を形状に合わせて10m四方のグリッドで区画し、1.5m×4m及び1.5m×8mのトレンチを区画に合わせて26か所設定し、拡張分を合わせて210㎡分を、人力及び重機で掘削し、遺構・遺物の検出に努めた。

調査期間は、平成19年11月15日から平成20年2月19日まで。11月15日器材搬入。古墳周辺清掃。15日～16日グリッド・トレンチ設定。16日～19日古墳測量。人力による掘削。20日・21日重機による掘削。21日～27日トレンチ内精査。検出遺構記録。土層調査。28日～30日下層調査。12月3日重機による埋め戻し。その後、伐採木搬出作業のため中断。2月13日グリッド・トレンチ設定。18日重機による掘削。



第21図 道地遺跡e地点出土遺物

18日・19日トレンチ内精査、検出遺構の記録をとり、調査を終了した。

#### 調査の概要

調査区南部で土層の観察を行った。東からE6-2G北壁、D5-2G北壁、C5-1G北壁、それぞれの地表面標高は、21.95m、21.7m、20.0~20.6mである。E6-2GとD5-2Gの土層は若干類似しており、I層（暗褐色土~黒褐色土、表土層。E6-2Gではしまりが弱い、D5-2Gではしまり強い）、IIa層（暗褐色土~黒褐色土、腐植土層。E6-2Gでは下半が暗色なので2枚に分層した。）、IIb層（暗褐色土~黒褐色土に褐色土が斑状に含まれる。新期富士テフラ層）、IIc層（暗褐色~褐色土、ローム漸移層）、III層（ソフトローム層。2枚に分層。E6-2Gでは下の方が明色、D5-2Gでは下の方が暗色）、IV~V層（ハードローム層）である。ソフトローム層までの深さは、E6-2Gでは70cm、D5-2Gでは54cmで標高21.15~21.25m、ハードローム層までの深さは、E6-2Gでは1.08~1.20m、D5-2Gでは88cm~1mで標高20.65~20.85mであった。斜面のC5-1Gは、すべて褐色土で、土層の変化に乏しく層位が捉えにくかったが、I層（表土層）、IIc層（ローム漸移層）、III層（ソフトローム層）、VI層（AT）、VII層、IXa層（上よりやや暗色）、Xa層とした。

調査区の南東部にある墳丘の周囲には周溝が検出され、古墳であることが確定した。墳丘が低く、周溝が方形になるように見え、古式の土師器が見られたことから、比較的古い古墳になるかと推測したが、その後平成20年度実施の本調査で、箱式石棺を埋葬主体部とする後期古墳であることがわかった。墳丘は円墳、墳頂の標高は22.549m、墳丘の直径は12.5~14m、高さは70cm。周溝の幅は、2.8~4.8mであった。

その他の遺構も調査区の南部にまとまっていた。縄文時代と推定される土坑3基、古墳の周溝を切る溝が2条平行に検出された。溝の遺物は縄文土器や土師器、石製模造品などで比較的早く、奈良・平安時代に属するものと想定した。他に近世の土坑1基を確認した。

遺物も調査区南部からの出土が主体であった。出土遺物合計209点、うち204点はC4G~E4G以南から出土した。内訳は土師器が最多で115点、縄文土器83点、弥生土器4点、土器小片4点、石製模造品1点、鉄洋1点、小礫1点であった。うち20点を抽出し、図示した。

#### 調査のまとめ

平戸台8号墳の現況規模を測定することができた。また縄文時代の遺構・遺物が比較的多いこと、奈良・平安時代と考えられる平行する溝2条を確認した。堅穴住居跡の要素は少なく、古墳周辺の土地利用の一形態と捉えることができよう。なお、本地点の438㎡及び古墳の区域外部分180㎡を加えた618㎡について平成20年度に本調査が行われた。

#### 文献

- 山岸憲 (1971) 「平戸台1号墳発掘調査概報」、『史学報』2、千葉県立八千代高等学校八千代史学会
- 八千代市教育委員会 (1986) 「平戸道地遺跡-農業道路敷設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-」(a地点)
- 堀部昭夫 (1991) 「平戸台古墳群」, 八千代市史編さん委員会『八千代市の歴史 資料編 原始・古代・中世』
- 八千代市教育委員会 (2001) 「千葉県八千代市平戸台2号墳発掘調査報告書」
- (財) 千葉県文化財センター (2004) 「船橋印西線埋蔵文化財調査報告書2-八千代市道地遺跡-」
- (財) 千葉県教育振興財団 (2006) 「船橋印西線埋蔵文化財調査報告書5-八千代市島田込ノ内遺跡(2)・間見穴遺跡(3)・道地遺跡(2)-」
- 八千代市教育委員会 (2008) 「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成19年度」(c地点・d地点)

図版9 道地遺跡e地点



(1) 調査前状況



(2) D5-2G土層断面



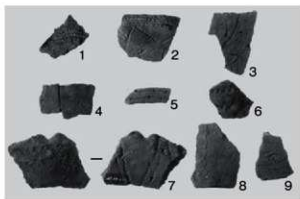
(3) D5-2~4G古墳周溝検出状況



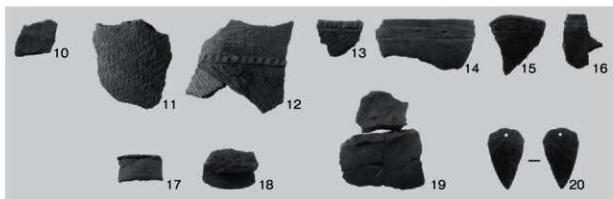
(4) C4-1G遺構検出状況



(5) 調査状況



(6) 出土遺物-1- (番号は、第21図と一致)



(7) 出土遺物-2- (番号は、第21図と一致)

## 9. 蛸池台遺跡

### 遺跡の立地と概要

蛸池台遺跡は、市域の中央やや北寄り、新川の東岸台地上、標高20m～25mに立地する。本遺跡は、縄文時代中期～後期、古墳時代前期～中期、平安時代の包蔵地として登録されている。発掘調査は、今回が初めてである。今回の地点は、遺跡の東端の畑地で、標高24～25mの平坦面である。

### 調査の方法と経過

障害物を避けてトレンチを任意に17箇所設定し、390㎡分を重機で掘削し、遺構・遺物の検出に努めた。

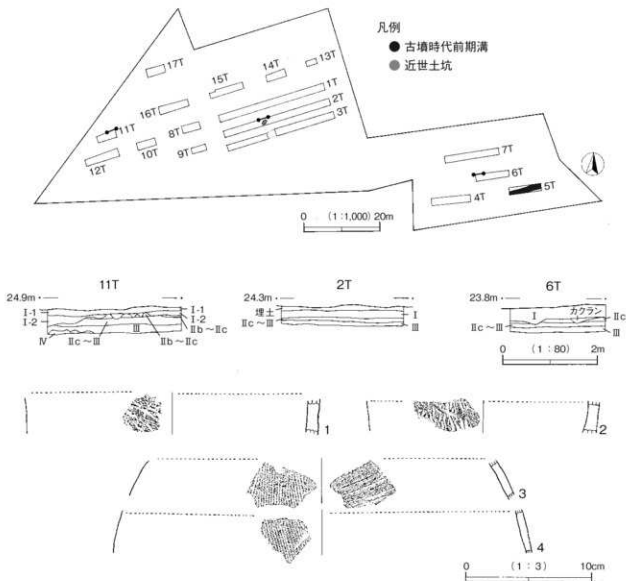
調査期間は、平成20年2月5日から2月29日まで。5日器材搬入、トレンチ設定、実測。6日・7日重機による掘削。7日・8日トレンチ内精査、土層調査。12日器材撤収。障害物撤去のため中断。21日～25日器材搬入、トレンチ設定。27日重機による掘削。28日・29日トレンチ内精査、器材を撤収し、調査を終了した。

### 調査の概要

土層の観察は、調査区西部の11T、中央部の2T、東部の6Tで行った。標高は、西の方が約1m高かった。Ⅰ層は、畑の耕作土で、11Tでは暗褐色土・灰褐色土と黒褐色土・暗褐色土・褐色土の混じり合った土とに分層した。2Tでは暗褐色土・灰褐色土、6Tでは暗褐色土であった。11Tではその下にⅡb～Ⅱc層（褐色土）が認められた。Ⅱc～Ⅲ層は各トレンチで認められた。11Tでは地表下34～40cm、標高24.3mでⅢ層（ソフトローム層）、地表下40～45cm、標高24.2mでⅣ層（ハードローム層）であった。2Tでは地表下28～37cm、標高23.8m前後でⅢ層、6Tでは地表下40～48cm、標高23.2m前後でⅢ層であった。Ⅲ層を10～20cm掘り下げて遺構を確認した。



第22図 蛸池台遺跡位置図 (S = 1 : 5,000)



第23図 蛸池台遺跡遺構配置図・土層断面図・出土遺物

遺構は、東端の5 Tから溝が1条抽出された。幅1.5m、覆土は褐色土である。ハケ目のある土師器片が2点出土したため、古墳時代前期の溝と想定した。また、2 T内で土坑が1基検出された。平面形は1.56×9.6mの長方形で、覆土は黒褐色土である。プラン明瞭で覆土の状態などから近世の土坑と想定した。

遺物は合計5点出土した。うち4点を図示した。第23図1・2はともに4 T出土。1は復元最大外径23.4cm。胎土に粗砂を含み、色は外面橙褐色、内面灰白色、文様・調整は、外面は摺糸文か、内面はナデ。2は復元最大外径18.4cm。胎土に粗砂を含み、色は外面黒褐色、内面褐色、文様・調整は、外面は摺糸文か、内面はナデ。胎土や文様が似ており、同一個体かもしれない。縄文時代前期末～中期初頭か。3・4は5 Tの溝から出土した土師器甕の破片で、3は、復元最大外径30.4cm、胎土に粗砂、径1～2mmの淡褐色粒子、径2mm赤褐色粒子を含み、色は外面黒色、黒灰色、内面黒灰色、調整は外面ハケ目、内面ナデ痕顕著。4は復元最大外径33cm。胎土は3と同じ、色は外面暗褐色、内面黒灰色、調整は外面ハケ目、

図版10 蛸池台遺跡



(1) 遺跡近景



(2) 11T土層断面



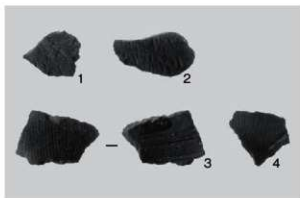
(3) 2T土層断面



(4) 5T溝検出状況



(5) トレンチ掘削状況



(6) 出土遺物（番号は、第23図と一致）

内面ナデ。胎土・調整が似ており、同一個体と考えられる。

#### 調査のまとめ

遺構・遺物とも希薄であったが、古墳時代前期と考えられる溝を検出することができた。本遺跡についての新しい情報を得ることができた。

## 報 告 書 抄 録

ふりがな	ちばけんやちよし しないいせきはつくつようさほうこくしょ へいせい20ねんど							
書名	千葉県八千代市 市内道路免掘調査報告書 平成20年度							
副書名	向山道跡e地点 川崎山道跡n地点 作山道跡c地点 白筋道跡b地点 内野南道跡d地点 役山東道跡b地点 白幡前道跡c地点 道地道跡e地点 蛸池台道跡							
編著者名	常松成人							
編集機関	八千代市教育委員会							
所在地	〒276-0045 千葉県八千代市大和田138-2 ☎047 (483) 1151代表							
発行年月日	2009年1月30日							
ふりがな 所収道跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
		市町村	道跡番号					
向山道跡e地点	八千代市大和田新田字向山501番の1ほか	12221	173	35度 43分 37秒	140 5分 51秒	20070402 ～ 20070410	上層285 下層21 /2,997.73	共同住宅建設
川崎山道跡n地点	八千代市萱田字中台2288-3	12221	241	35度 43分 12秒	140度 6分 51秒	20070420 ～ 20070427	126 /1,178.78	一戸建売住宅建設
作山道跡c地点	八千代市小池字庚申前347-2	12221	1	35度 46分 16秒	140度 5分 35秒	20070427 ～ 20070509	250 /1,920	駐車場
白筋道跡b地点	八千代市村上字殿内1587番3ほか	12221	208	35度 43分 25秒	140度 7分 17秒	20070629 ～ 20070710	446 /3,686.44	立体駐車場建設
内野南道跡d地点	八千代市吉備字内野1058番1	12221	289	35度 43分 45秒	140度 4分 46秒	20070712 ～ 20070814	上層970 下層32 /9,702.82	集合住宅建設
役山東道跡b地点	八千代市米本字役山2443番1の一部ほか	12221	105	35度 45分 27秒	140度 7分 30秒	20070927 ～ 20071020	上層300 下層16 /2,999.13	駐車場
白幡前道跡c地点	八千代市萱田字上ノ台2083ほか	12221	185	35度 43分 26秒	140度 6分 41秒	20071024 ～ 20071107	91 /894.01	共同住宅建設
道地道跡e地点	八千代市平戸字西ノ上306の一部ほか	12221	18	35度 46分 03秒	140度 6分 46秒	20071115 ～ 20080219	上層210 下層20 /2,032.52	資材置場
蛸池台道跡	八千代市米本2167-2、-3、-16	12221	112	35度 44分 59秒	140度 6分 55秒	20080205 ～ 20080229	390 /4,300	駐車場



所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
向山遺跡 e 地点	散布地	旧石器時代、縄文時代	なし	なし	
川崎山遺跡 n 地点	集落跡	縄文時代 弥生時代後期 古墳時代中期	陥穴1基 竪穴住居跡1軒 竪穴住居跡1軒	縄文土器、石器剥片 弥生土器 古墳時代土師器	
作山遺跡 c 地点	散布地	奈良・平安時代 近・現代	溝1条	奈良・平安時代須恵器・土師器	
白筋遺跡 b 地点	散布地	奈良・平安時代 近・現代	竪穴住居跡1軒、溝1条、 土坑5基 溝2条	奈良・平安時代須恵器・土師器	
内野南遺跡 d 地点	集落跡	縄文時代 早期～後期	縄文時代前期竪穴住居跡1 軒、早期陥穴1基、早期～ 前期土坑17基	縄文土器（早期～後期）、磨石、 敲石、焼礫	
役山東遺跡 b 地点	集落跡	縄文時代早期～後期 古墳時代前期 同 後期	土坑7基 竪穴住居跡2軒 竪穴住居跡2軒、土坑5基	縄文土器（早期～後期） 古墳時代前期土師器 古墳時代後期土師器、須恵器、 鉄製品	
白幡前遺跡 c 地点	集落跡	奈良・平安時代 近世	竪穴住居跡3軒、土坑2基、 溝1条 溝1条	奈良・平安時代土師器、須恵器 陶器、泥面子	
道地遺跡 e 地点	散布地 古墳	縄文時代 古墳時代後期 奈良・平安時代 近世	土坑3基 古墳1基 溝2条 土坑1基	縄文土器（前期～後期） 古墳時代土師器	平戸台8号墳
蛸池台遺跡	散布地	縄文時代 古墳時代前期 近世	溝1条 土坑1基	縄文土器（前期末～中期初頭） 古墳時代前期土師器	
要 約	向山遺跡 e 地点 川崎山遺跡 n 地点 作山遺跡 c 地点 白筋遺跡 b 地点 内野南遺跡 d 地点 役山東遺跡 b 地点 白幡前遺跡 c 地点 道地遺跡 e 地点 蛸池台遺跡	遺構・遺物とも検出されなかった。向山遺跡における遺構・遺物分布状況の最新情報を得ることができた。 本遺跡において主体を占める時代の遺構が検出され、典型的と言える地点であることがわかった。 遺構・遺物とも希薄な状況であった。 奈良・平安時代の遺構群が検出された。 縄文時代早期～前期を中心とした遺構の展開が確認された。 縄文時代、古墳時代前期・後期の遺構・遺物が検出され、遺跡の新たな展開の可能性を認識することができた。 奈良・平安時代の遺構群が検出され、著名な古代遺跡に新資料を追加した。 遺跡の南西端に当たり、平戸台古墳群第8号墳が存在する。古墳周溝、縄文時代の土坑、古代の溝などを確認した。 遺構・遺物とも希薄であったが、古墳時代前期の溝を確認でき、本遺跡についての新知見を得た。			